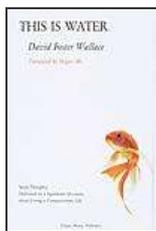


書評 201902



これは水です～思いやりのある生きかたについて大切な機会に少し考えてみたこと～

デヴィッド・フォスター・ウォレス、阿部 重夫 著
田畑書店

ケニオン・カレッジの 2005 年度の卒業式に招かれた作家デヴィッド・フォスター・ウォレスが、卒業生に贈ったスピーチを収録。「考える方法を学ぶ」ことが人生にとってどれほど重要かを、平明かつしなやかな言葉で語る。

2018:7./ 166p
978-4-8038-0353-2

本体 ¥1,200+税



産経新聞 2019/02/02



あふれでたのはやさしさだった～奈良少年刑務所絵本と詩の教室～

寮 美千子 著
西日本出版社

詩が少年たちの心の扉を開き、仲間が受け止めてくれる。「社会性涵養プログラム」の一環として、著者が 2007?16 年に奈良少年刑務所で行った「物語の教室」の軌跡を記した書。犯罪を犯した少年たちの本当の姿を伝える。

2018:12./ 223p
978-4-908443-28-2

本体 ¥1,000+税



産経新聞 2019/02/02



帰去来

大沢 在昌 著
朝日新聞出版

警視庁捜査一課の志麻由子は、捜査中に気を失い、異次元の「アジア連邦・日本共和国・東京市」で目覚める。もう 1 人の自分はエリート警視。戸惑いながらも由子は彼女となり…。『小説トリッパー』掲載を加筆修正し書籍化。

2019:1./ 546p
978-4-02-251587-2

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/02/03



慶應義塾文学科教授 永井荷風(集英社新書 0959)

末延 芳晴 著
集英社

稀代の好色文学者として知られる永井荷風は、慶應義塾文学科教授として活躍、大学の機関誌『三田文学』を創刊し、門下生を文学者として世に送り出した優れた教育者でもあった。その実像と功績を明らかにする。

2018:12./ 317p
978-4-08-721059-0

本体 ¥940+税



産経新聞 2019/02/03



「あの世」と「この世」のあいだ～たましいのふるさとを探して～(新潮新書 794)

谷川 ゆに 著
新潮社

合理主義と科学の呪縛を超え、琉球弧の島々から北海道まで、その土地と人と自然の中に宿る神々や死者を想い、古代から現代へと連なるたましいの水脈を探る。『波』連載を改題して新書化。

2018:12./ 213p
978-4-10-610794-8

本体 ¥760+税



産経新聞 2019/02/03

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2019 年 2 月時点での税抜価格です。



戦場のレビヤタン

砂川 文次 著
文藝春秋

武装警備員としてイラクに赴いた K。何が日常で何が非日常か。日本と戦地を隔てるものは。誰が敵で誰が味方なのか。心に浮かぶ想念と荒涼とした紛争地の風景を淡々と描く表題作に「市街戦」を併録。『文學界』掲載を単行本化。

2019:1./ 161p
978-4-16-390985-1
本体 ¥1,550+税



産経新聞 2019/02/03



誰も農業を知らない～プロ農家だからわかる日本農業の未来～

有坪 民雄 著
原書房

机上の改革案が日本農業をつぶす! 農家減少・高齢化の衝撃、「ビジネス感覚」農業の盲点、遺伝子組み換え作物の是非など、日本農業の現状と突破口を専業農家のリアルな視点から見る。ウェブ『JBPRESS』連載を書籍化。

2018:12./ 6p,307p
978-4-562-05613-2
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/02/03



わが陶器造り

富本 憲吉、前崎 信也 編
富本 憲吉 著
里文出版

第1回重要無形文化財保持者(人間国宝)の富本憲吉が、陶芸家を目指す学生に向けて残した未完の指南書。作陶から焼成、販売までのノウハウを、当時のガリ版刷りそのままの形で収める。本体は背表紙なし糸綴じ。

2019:1./ 390p
978-4-89806-474-0
本体 ¥3,750+税



産経新聞 2019/02/03



福澤が夢見たアジア-西郷の大変革～明治維新一五〇年と日中文明比較論～

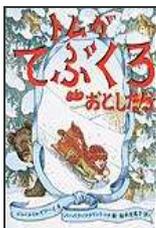
井尻 秀憲 著
アジアユーラシア総合研究所

明治維新 150 年。今日の日本はどのような精神構造や日本人の心でもって、東アジア多文明のなかでの中華文明と共生・対決しようとしているのか。日本やアジアから新たなグローバル・ヒストリーを描く時代を迎えたことを示す。

2018:10./ 190p
978-4-909663-08-5
本体 ¥800+税



産経新聞 2019/02/03



トムがてぶくろおとしたら

ジム・エイルズワース、バーバラ・マクリントック、福本 友美子 著
犀の工房

遊ぶのが大好きな男の子、トム。冬は、毛糸の帽子とマフラー、てぶくろをつけて、外で遊びます。ところが、片方のてぶくろを落としてしまい…。ウクライナ民話「てぶくろ」の新しい再話。裏表紙にホットココアの作り方つき。

2018:11./ 1 冊(ページ付なし)
978-4-9910063-1-9
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/02/03



明治天皇の世界史～六人の皇帝たちの十九世紀～(PHP 新書 1160)

倉山 満 著
PHP研究所

なぜ、近代日本は天皇を必要としたか? 明治天皇、大英帝国のヴィクトリア女王、ドイツ帝国のヴィルヘルム 2 世ら 6 人の皇帝の同時代史比較から読み解く、壮大な世界史。近代日本の「成功」の真実がわかる一冊。

2018:10./ 318p
978-4-569-84157-1
本体 ¥920+税



産経新聞 2019/02/09



東京の子

藤井 太洋 著

KADOKAWA

2023年、東京。パルクール・パフォーマーを15歳で引退し、何でも屋として生計を立てる舟津伶は、失踪したベトナム人、ファミの捜索を依頼され…。アフターオリンピックの日本を描く。『文芸カドカワ』連載を加筆修正。

産経新聞 2019/02/10

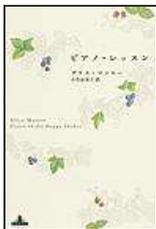
2019:2./ 356p

978-4-04-105267-9

本体 ¥1,600+税



* 9 7 8 4 0 4 1 0 5 2 6 7 9 *



ピアノ・レッスン(CREST BOOKS)

アリス・マンロー 著

新潮社

行商に同行した娘は父の別の顔を目撃し…。カナダの田舎町を舞台に、平凡な日常を送る人々が、些細な出来事から運命を変えていく有様を追う。「現代のチャーホフ」と称されるノーベル賞作家の原風景に満ちたデビュー作品集。

産経新聞 2019/02/10

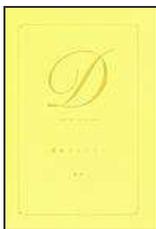
2018:11./ 326p

978-4-10-590154-7

本体 ¥2,200+税



* 9 7 8 4 1 0 5 9 0 1 5 4 7 *



壇蜜ダイアリー

壇蜜 著

文藝春秋

日記とは生々しい己を許し、あやし、戒める場所だという…。40を目前に、日々を低温に生きる自分いじりの筆が冴え渡る! 壇蜜が綴った2017-2018の日記。直筆メッセージも掲載。

産経新聞 2019/02/10

2019:1./ 165p

978-4-16-390954-7

本体 ¥1,200+税



* 9 7 8 4 1 6 3 9 0 9 5 4 7 *



世を観よ

坂井 音重 著

幻冬舎メディアコンサルティング

日本の伝統を追求し、フランス、アメリカ、中国、ロシアなどの世界で舞い続ける能楽師の美学とは-。観世流坂井職分家当主が、表情豊かな日本の文化を語り尽くす。『都政新聞』連載を書籍化。

産経新聞 2019/02/10

2018:11./ 225p

978-4-344-91668-5

本体 ¥1,200+税



* 9 7 8 4 3 4 4 9 1 6 6 8 5 *



近代日本のメディア議員〜<政治のメディア化>の歴史社会学〜

河崎 吉紀 編

創元社

政治の自立性を奪う<メディアの論理>とは何か? メディア関連(経験・経営・役員)議員の分析を通して、世論迎合型(=劇場型)政治のルーツと変遷を検証する。「衆議院議員名鑑」掲載のメディア議員984人のリスト付き。

産経新聞 2019/02/10

2018:11./ 482p

978-4-422-30073-3

本体 ¥4,500+税



* 9 7 8 4 4 2 2 3 0 0 7 3 3 *



生き残った人の7つの習慣〜登山でもビジネスでも「危険」を回避した人は必ずこれをやっている〜

小西 浩文 著

山と溪谷社

山の世界に必要な「危機管理」は、一般社会でも大いに役に立つ。著者が実際に山の世界で九死に一生を得た経験や、仲間が遭遇してきたさまざまな「危機」をケーススタディに、危機管理の極意を紹介する。

産経新聞 2019/02/10

2018:12./ 189p

978-4-635-31039-0

本体 ¥1,200+税



* 9 7 8 4 6 3 5 3 1 0 3 9 0 *



北朝鮮の漂着船～海からやってくる新たな脅威～

荒木 和博 著
草思社

数か月の間に日本に流れ着いた 100 隻以上の船。乗っているのは漁民だけではない。北朝鮮の木造船の着岸・漂流がいかに深刻な問題であるか、水面下で進行する危機に警鐘を鳴らし、日本の安全保障の欠陥を明らかにする。

2018:12./ 205p
978-4-7942-2369-2
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/02/10



野生のロボット

ピーター・ブラウン、前沢 明枝 著
福音館書店

嵐のあと、無人島に流れ着いたロボットのロズは、生きていくためにまわりの野生動物のまねをすることを学んでいく。動物たちは、はじめはロズを怪物よばわりしておそれていたが…。ロボットと動物たちの友情を描いた物語。

2018:11./ 302p
978-4-8340-8356-9
本体 ¥1,900+税



産経新聞 2019/02/10



南極ではたらく～かあちゃん、調理隊員になる～

渡貫 淳子 著
平凡社

平凡な主婦の料理と生き方を変えた 1 年 4 カ月の南極暮らし。一念発起して南極地域観測隊の調理隊員になった著者が、昭和基地での生活について綴る。天かすをリメイクした「悪魔のおにぎり」のレシピも掲載。

2019:1./ 175p
978-4-582-83795-7
本体 ¥1,400+税



産経新聞 2019/02/16



樹木希林 120 の遺言～死ぬときぐらい好きにさせてよ～

樹木 希林 著
宝島社

とにかく、世の中を面白がること。老いだって病気だって、自分の栄養になる。生・老・病・死など普遍的なテーマを中心に、樹木希林が残した 120 の言葉を厳選して収録する。巻頭には写真も掲載。

2019:2./ 279p
978-4-8002-9192-9
本体 ¥1,200+税



産経新聞 2019/02/16



1971年の悪霊(角川新書 K-245)

堀井 憲一郎 著
KADOKAWA

1970 年代に生まれた思念に覆われている日本。日本に満ちているやるせない空気の正体は何なのか。若者文化の在り様を丹念に掘り下げ、その源流を探る。ウェブメディア『Cakes』、『現代ビジネス』掲載を加筆し書籍化。

2019:1./ 223p
978-4-04-082043-9
本体 ¥860+税



産経新聞 2019/02/17



肉声～宮崎勤 30 年目の取調室～

安永 英樹 著
文藝春秋

幼女 4 人が犠牲になった、東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件。逮捕直後、宮崎勤は取調室で警視庁捜査一課の名物刑事に何を語っていたのか。独自に入手した取り調べの音声テープから、犯罪史上類を見ない猟奇事件の闇に迫る。

2019:1./ 243p
978-4-16-390868-7
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/02/17



DAILY GIFT BOOK～気持ちが伝わる贈りものアイデア～

オモムロニ。著
文藝春秋

「ありがとう」「おつかれさま」「おめでとう」「がんばれ」といった、日々のちょっとした気持ちを伝えられるギフト選びのアイデアを紹介。150円から5000円までの雑貨&フードが満載。データ:2019年1月現在。

2019.1./ 110p
978-4-16-390929-5

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/02/17



夢も見ずに眠った。

絲山 秋子 著
河出書房新社

夫を熊谷に残し、札幌へ単身赴任を決めた沙和子。だが、大津で久しぶりに再会した夫に鬱の兆候が。そして物語は函館、青梅、横浜、奥出雲へ…。土地の「物語」に導かれたふたりの人生を描いた長編小説。『文藝』連載を書籍化。

2019.1./ 299p

978-4-309-02771-5

本体 ¥1,750+税



産経新聞 2019/02/17



天命

岩井 三四二 著
光文社

大内、尼子の二大勢力に翻弄される小国人・毛利家の次男に生まれた元就。戦国を駆け抜けた男の、生き方を変えたものは何だったのか。武略名高き西国の雄・毛利元就の戦いの生涯を描く。『小説宝石』掲載に書下ろしを追加。

2019.1./ 467p

978-4-334-91263-5

本体 ¥1,900+税



産経新聞 2019/02/17



コミュニケーションの教科書～ハーバード・ビジネス・レビューコミュニケーション論文ベスト10～(Harvard Business Review)

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 編
ダイヤモンド社

相手を納得させるには、何を、どう話すべきか。効果的なコミュニケーション法を『ハーバード・ビジネス・レビュー』掲載の名著論文で学べる書。演出法や説得術の分析等、多面的研究に基づく効果的な意思伝達の方法を伝授する。

2018.12./ 13p,253p

978-4-478-10693-8

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/02/17



偽善への挑戦 映画監督川島雄三

カワシマクラブ 編
ワイズ出版

映画監督・川島雄三の日活、大映、東宝の27作品を解説。川島ファンによるエッセイ、小沢昭一へのインタビューを収録するほか、作品・監督批評、シナリオ「雁の寺」(改訂版)なども掲載。「監督川島雄三松竹時代」の続編。

2018.12./ 490p

978-4-89830-325-2

本体 ¥2,750+税



産経新聞 2019/02/17



「道明」の組紐

道明 葵一郎 著
世界文化社

帯締めをはじめ様々な組紐を製作する、1652年創業の有職組紐「道明」の、歴史性をもつ色とそれを用いた新作帯締め、伝統的な組紐作り、組紐独自の美しさをクローズアップしたファッション小物などを紹介する。

2018.12./ 111p

978-4-418-18422-4

本体 ¥2,700+税



産経新聞 2019/02/23



日本に自衛隊がいてよかった～自衛隊の東日本大震災～(産経 NF 文庫 S-9 さ)

桜林 美佐 著
潮書房光人新社

2011年3月11日、日本を襲った未曾有の大震災。被災、使命、決断、団結-。最も頼もしい集団、自衛隊の闘いの記録。日本と自衛隊の危機について解説した「災害派遣の舞台裏」も収録。

2019:3./ 218p
978-4-7698-7009-8
本体 ¥760+税



産経新聞 2019/02/23



証言でつづる日本国憲法の成立経緯

西 修 著
海竜社

日本国憲法は、どのような人たちが、どんな風に関わって作成されたのか。連合国総司令部(GHQ)で日本国憲法の原案(マッカーサー草案)を起草した8人を含む、関係者たちのインタビューを、関連年表や概説とともに収録。

2019:1./ 515p
978-4-7593-1637-7
本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/02/24



古九谷の暗号～加賀藩主・前田利常がつくった洗礼盤～

孫崎 紀子 著
現代書館

加賀藩主・前田利常の、藩内キリシタンに対する絶妙な対策が「古九谷の誕生」だった。巧妙な利常の意図を、隠されたキリシタンマークの実例を挙げながら解明する。活字で利用できない人のためのテキストデータ請求券付き。

2019:1./ 206p
978-4-7684-5843-3
本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/02/24



ストーリー～ロバート・マッキーが教える物語の基本と原則～

ロバート・マッキー、越前 敏弥 著
フィルムアート社

著名な脚本講師による物語創作術のテキスト。ストーリー、すなわち物語を語るに際してどのようにすれば観客の心がつかめるのかについて、過去の様々な優れた作品を手本として、最も成功してきた手法を分析、解説する。

2018:12./ 533p
978-4-8459-1720-4
本体 ¥3,200+税



産経新聞 2019/02/24



ニッポン 47 都道府県正直観光案内

宮田 珠己 著
本の雑誌社

岩手県のおしらせ、宮崎県の高鍋大師、新潟県の火?型土器、島根県の石見神楽...。絶景、奇景、魔境、珍妙な今すぐ行きたくなる観光地を都道府県別に紹介する。『WEB 本の雑誌』『本の雑誌』連載を加筆し単行本化。

2019:1./ 293p
978-4-86011-423-7
本体 ¥1,650+税



産経新聞 2019/02/24



軍神 杉本中佐

山岡 荘八、大義研究会 著
産経広告社

昭和12年、日支事変の激戦に倒れた杉本五郎中佐。その壮絶な最期と、求道的・自己犠牲的精神から、「軍神」と称えられた男は、いかに生き、何を遺したのか。歴史小説の巨匠・山岡荘八が、日本人の魂を描く。

2018:12./ 402p
978-4-88238-038-2
本体 ¥1,852+税



産経新聞 2019/02/24



百姓一揆(岩波新書 新赤版 1750)

若尾 政希 著
岩波書店

なぜ百姓は、訴訟や一揆を通して粘り強く自己主張することができたのか。各地に残る一揆物語には、どんな思想が織りこまれていたのか。研究の進展により大きく転換した百姓一揆の歴史像を手がかりに、近世という時代を考える。

2018:11./ 7p,234p,7p
978-4-00-431750-0

本体 ¥820+税



朝日新聞 2019/02/02



大学大崩壊～リストラされる国立大、見捨てられる私立大～(朝日新書 693)

木村 誠 著
朝日新聞出版

「量か質か?」を迫られる私立大学、競争に疲れ切った国立大学、留学生頼みの「グローバル化」、奮闘を続ける大学・学部…。長く日本の様々な大学を取材してきた著者が、すべて実名、最新データで「明」と「暗」を解明する。

2018:11./ 231p

978-4-02-273790-8

本体 ¥790+税



朝日新聞 2019/02/02



0から1をつくる～地元で見つけた、世界での勝ち方～(講談社現代新書 2509)

本橋 麻里 著
講談社

銅メダルを獲得した平昌五輪、海と空と畑しかない故郷、ロコ・ソラーレと歩んできた 8 年…。カーリング女子を率いた本橋麻里が、コミュニケーション術、組織マネジメント術、リーダー論を明らかにする。

2019:1./ 188p 図版
16p

978-4-06-514414-5

本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/02/02



映画館と観客の文化史(中公新書)

加藤 幹郎 著
中央公論新社

映画は、どこでどのような形で見られてきたのか。黎明期から今日までの 110 年間の上映形態を一念にたどりながら、映画の見かたが、じつは本来、きわめて多様なものだったことを明らかにし、映画の本質に迫る。

2006:7./ 302p

978-4-12-101854-0

本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/02/02



禅とは何か～それは達磨から始まった～(中公文庫 み 10-23)

水上 勉 著
中央公論新社

達磨に始まり日本で独自に発展した禅の歴史を総覧。世俗を否定し、超越する本来の禅を「純禅」とする著者が、栄西、道元、一休、沢庵、白隠、良寛など、「純禅」に生きた先達の生涯と思想について語る。

2018:12./ 396p

978-4-12-206675-5

本体 ¥960+税



朝日新聞 2019/02/02



大統領失踪<上>

ビル・クリントン、ジェイムズ・パターソン、越前 敏弥、久野 郁子 著
早川書房

大規模なサイバー攻撃の可能性を察知したアメリカのダンカン大統領は、それを阻止すべく、自らワシントン DC の街へと向かった。元大統領とベストセラー作家による迫真のエンタテインメント。

2018:12./ 330p

978-4-15-209818-4

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/02



大統領失踪<下>

ビル・クリントン、ジェイムズ・パターソン、越前 敏弥、久野 郁子 著
早川書房

サイバー攻撃を密かに画策するのはダンカン大統領の地位を狙う副大統領か、あるいは国家安全保障に携わる閣僚たちか。内通者は政権首脳部にいる…。元大統領とベストセラー作家による迫真のエンタテインメント。

2018:12./ 317p
978-4-15-209819-1
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/02



一切なりゆき〜樹木希林のことば〜(文春新書 1194)

樹木 希林 著
文藝春秋

名女優が語り尽くした生と死、演技、男と女。さまざまな雑誌に掲載された樹木希林の言葉をまとめる。ユーモアと洞察に満ちた希林流生き方のエッセンスが満載。樹木希林年譜、内田也哉子による喪主代理の挨拶も収録。

2018:12./ 215p
978-4-16-661194-2
本体 ¥800+税



朝日新聞 2019/02/02



書道教室(リュウコミックス)

筒井秀行 著
徳間書店

意を決し逆プロポーズをするも、まさかのごめんなさい!大きなショックと気まずさに耐えられず会社を辞めた圭の元に、祖母の入院の報せが。お見舞いに行くと祖母から、自分の書道教室の先生を引き受けてほしいと頼まれて…。

2018:12.
978-4-19-950660-4
本体 ¥680+税



朝日新聞 2019/02/02



芸術闘争論(幻冬舎文庫 む-10-2)

村上 隆 著
幻冬舎

行動せよ! 外に出よ! 世界で闘い続けてきた当代随一の芸術家・村上隆が、アートをビジネスとして、世界で生き抜くための実践的奥義を開陳する。煮えたぎる芸術への想いを、授業形式にまとめた一冊。

2018:12./ 316p
978-4-344-42815-7
本体 ¥600+税



朝日新聞 2019/02/02



アンダークラス〜新たな下層階級の出現〜(ちくま新書 1371)

橋本 健二 著
筑摩書房

就業人口の 15%が平均年収 186 万円。「アンダークラス」という階級に属する人々はどうのように生きているのか? 若者・中年、女性、高齢者とそれぞれのケースにわけ、調査データをもとにその実態を明らかにする。

2018:12./ 250p
978-4-480-07187-3
本体 ¥820+税



朝日新聞 2019/02/02



「流域地図」の作り方〜川から地球を考える〜(ちくまプリマー新書 205)

岸 由二 著
筑摩書房

近所の川の水の流れを追って「流域地図」を作ってみよう。すると、大地の連なりから、都市と自然の共存まで見えてくる。流域地図を手がかりとして、地域の自然の保全や、災害への対策、地球的規模の環境問題などを考える。

2013:11./ 156p
978-4-480-68907-8
本体 ¥740+税



朝日新聞 2019/02/02



明治維新とは何か？

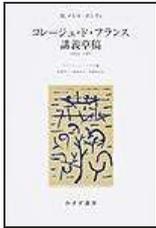
田中 希生 編
東京堂出版

明治維新が起きてから 150 年。世界史の中の明治維新、「夜明け前」にみる明治維新、王政復古の地平などをテーマに、明治維新とは何かを考察する。2018 年、奈良女子大学開催の公開セミナーを書籍化。

2018:12./ 296p
978-4-490-21000-2
本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/02/02



コレージュ・ド・フランス講義草稿～1959-1961～

M.メルロ=ポンティ、松葉 祥一、廣瀬 浩司、加國 尚志 著
みすず書房

メルロ=ポンティが 1961 年に急逝する直前まで書かれていたコレージュ・ド・フランス講義のための草稿はじめ、遺稿として発見された当時の講義草稿を復元・編集。哲学者の晩年の思索を理解する大きな手がかりとなる書。

2019:1./ 6p,507p,21p
978-4-622-08763-2
本体 ¥7,800+税



朝日新聞 2019/02/02



中国都市ランキング～環境・社会・経済～<2017>

雲河都市研究院 編
周 牧之、陳 亜軍、徐 林、周 牧之 著
NTT出版

中国の都市を評価するとともに、その発展の方向性を具体的に示す「中国都市総合発展指標」にもとづく、中国都市ランキングを掲載。図で見る中国都市パフォーマンス、メインレポート「中心都市発展戦略」なども収録する。

2018:12./ 17p,253p
978-4-7571-2375-5
本体 ¥4,600+税



朝日新聞 2019/02/02



渇きの考古学～水をめぐる人類のものがたり～

スティーヴン・ミズン、赤澤 威、森 夏樹 著
青土社

有史以前から人類は水との戦いを続けてきた。古代の支配者たちは自らの権勢を強くするために灌漑システムや水管理の技術を高め、水の管理に失敗した数多の文明が崩壊した。認知考古学の第一人者が、人類と水の興亡史を綴る。

2014:5./ 478p,26p 図
版 16p
978-4-7917-6794-6
本体 ¥3,600+税



朝日新聞 2019/02/02



現代演劇大全～いま観るべき舞台のすべてがわかる～

マガジンハウス 編
マガジンハウス

人気の芝居を見るためのガイドブック。「NODA・MAP」「劇団☆新感線」「大人計画」から小劇団まで紹介するほか、大衆演劇の役者たちや梅沢富美男のロングインタビュー、いい舞台の見つけ方も収録する。

2019:1./ 161p
978-4-8387-3032-2
本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2019/02/02



Swimming Pool

マーリア・シュヴァルボヴァー、ヤナガワ 智予 著
青幻舎

凍りついたように佇む泳者たちは、プールのタイルのように滑らかで、シンと冷たい。スロヴァキア国内の 10 都市・10 カ所の機能主義的な水泳施設で撮影した、著者の人気シリーズを収めた写真集。

2018:11./ 103p
978-4-86152-689-3
本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/02/02



月夜に傘をさした話～正岡容単行本未収録作品集～

正岡 容 著
幻戯書房

芥川龍之介にホメられ、永井荷風を激怒させ、安藤鶴夫を妬み、稲垣足穂を友とした、神田生まれの作家・大衆芸能研究者、正岡容。大正 12 年?昭和 26 年に発表した、単行本未収録作品を中心とする小説・随筆 36 篇を収録。

2018:11./ 445p
978-4-86488-161-6
本体 ¥5,500+税



朝日新聞 2019/02/02



悲しくてカッコいい人

イラン、呉 永雅 著
リトル・モア

すべてが過ぎ去った後によろやく君は泣くのかい? 日常を悲しみながら、あははと笑い飛ばす。作り笑顔と「いいね!」の時代を揺るがす韓国のアーティスト、イ・ランのひとりごとエッセイ集。サイズの小さなページあり。

2018:11./ 261p,15p
978-4-89815-496-0
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/02



失われた、自然を読む力

トリストラン・ゲーリー、田淵 健太 著
エイアンドエフ

月、空、天気、地面、動物、植物...。自然を観察して得た手がかりから進路をどう推理するか。徒歩旅行の達人が、自分の位置を知り、行くべきルートをとらえ、訪れる危機を把握するための方法を教える。

2018:12./ 397p
978-4-909355-08-9
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/02/02



奉納百景～神様にどうしても伝えたい願い～

小嶋 独観 著
駒草出版

こんな祈願法見たことない! 錆びたハサミ(縁結び)、釘を打った男根(浮気防止)、紙で作ったスマホ(祖霊送り)...。日本各地の一般にはあまり知られていない奇妙な奉納習俗と、その理由や起源を豊富な写真と共に紹介する。

2018:11./ 231p
978-4-909646-11-8
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/02/02



領土消失～規制なき外国人の土地買収～(角川新書 K-242)

宮本 雅史、平野 秀樹 著
KADOKAWA

世界では、外国人による土地取得に規制がかけられているが、日本には規制がない。土地買収の現場を取材する記者と、各国の制度を調査する研究者が、日本の土地政策の危うさを訴える。「爆買いされる日本の領土」の続編。

2018:12./ 254p
978-4-04-082262-4
本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/02/02、産経新聞 2019/02/10



昭和戦争史講義～ジブリ作品から歴史を学ぶ～

一ノ瀬 俊也 著
人文書院

なぜあのような戦争は起こったのか。「火垂るの墓」「風立ちぬ」などジブリ映画の時代背景を、実際の歴史資料を使ってよみとき、現代社会と戦争の関係を考える。おすすめブックガイド付き。

2018:11./ 240p
978-4-409-52070-3
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/02、日本経済新聞 2019/02/23



抽象の力～近代芸術の解析～

岡崎 乾二郎 著
亜紀書房

近代芸術はいかに展開したか。20 世紀美術を動かした、真の芸術家たちは誰か。戦後美術史の不分明を晴らし、その力を発揮するはずの抽象芸術の可能性を明らかにする。雑誌掲載記事などに書き下ろしを加えて書籍化。

2018:11./ 417p,20p
978-4-7505-1553-3

本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/02/02、毎日新聞 2019/02/03



FACTFULNESS～10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣～

ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド 著
日経BP社

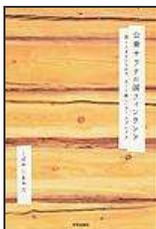
賢い人ほどとらわれる 10 の思い込みから解放されれば、癒され、世界を正しく見るスキルが身につく。データや事実にもとづき、世界を正しく読み解く習慣「ファクトフルネス」を紹介する。見返しに「世界保健チャート」等あり。

2019:1./ 397p
978-4-8222-8960-7

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/02、毎日新聞 2019/02/10、日本経済新聞 2019/02/23



公衆サウナの国フィンランド～街と人をあたためる、古くて新しいサードプレイス～

こばやし あやな 著
学芸出版社

街から消えゆく公衆浴場を、現代人の居場所に変えるには？ フィンランドの公衆サウナが現代の街づくりに果たす役割を、現地在住の著者が紹介する。公衆サウナ再興を仕掛けたプロジェクトリーダー6 人のインタビューも収録。

2018:12./ 159p
978-4-7615-2694-8

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/02/02、毎日新聞 2019/02/17



エチカ～倫理学～<上>(ワイド版岩波文庫)

スピノザ 著
岩波書店

ドイツ観念論体系成立の上に大きな役割を演じ、また唯物論的世界観のすぐれた先駆的思想でもある、スピノザが自己の哲学思想のすべてを結集させた書。上巻は第1部～第3部を収録。

2006:12./ 295p
978-4-00-007278-6

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/02/09



よりよき世界へ～資本主義に代わりうる経済システムをめぐる旅～

ジャコモ・コルネオ、水野 忠尚、隠岐-須賀 麻衣、隠岐 理貴、須賀 晃一 著
岩波書店

資本主義にとって代わる、実行可能かつ望ましい道はあるだろうか。国際的に有名な経済学者が、父と娘の対話を導入に、わかりやすく資本主義を問い直し、よりよい経済システムとは何かを考える。

2018:11./ 18p,366p,4p
978-4-00-025472-4

本体 ¥3,400+税



朝日新聞 2019/02/09



いま、<平和>を本気で語るには～命・自由・歴史～(岩波ブックレット No.990)

ノーマ・フィールド 著
岩波書店

平和について、「本気で」語りあうことがなぜ難しいのか。全体主義に立ち向かう一歩を踏み出すために、過労死、不登校、従軍慰安婦問題、福島復興などを考察する。2015 年 11 月、札幌北光教会での講演に加筆し書籍化。

2018:12./ 55p
978-4-00-270990-1

本体 ¥520+税



朝日新聞 2019/02/09



琥珀のまたたき(講談社文庫 お 80-4)

小川 洋子 著

講談社

妹を亡くし、ママと一緒にパパが遺した古い別荘に移り住んだオパール・琥珀・瑪瑙の三きょうだい。閉ざされた家の中、三人だけで独自に編み出した遊びに興じるうち、琥珀の左目にある異変が生じて…。

2018:12./ 330p

978-4-06-513996-7

本体 ¥680+税



朝日新聞 2019/02/09



スキップとローファー<1>(アフタヌーン KC)

高松 美咲 著

講談社

岩倉美津未、今日から東京の高校生!入学を機に地方から上京した彼女は、勉強こそできるものの、過疎地育ちゆえに同世代コミュ経験がとぼしい。だけど、まっすぐでまっしろな存在感が、クラスメイトたちをハッピーにしていけるのです!

2019:1./ 191p

978-4-06-514209-7

本体 ¥630+税



朝日新聞 2019/02/09



バーズパンケーキ国分寺(集英社文庫 ゆ 12-1)

雪舟 えま 著

集英社

くもりの日にだけ開店する、ちょっとかわったパンケーキ屋さん。幼なじみの男子と親友の女子がつきあい始めたことに悩む女子高生みほだが、店を訪れたのをきっかけに心に変化が…。

2019:1./ 237p

978-4-08-745833-6

本体 ¥590+税



朝日新聞 2019/02/09



本と鍵の季節

米澤 穂信 著

集英社

高校 2 年の図書委員、次郎と詩門は、先輩から亡くなった祖父が遺した金庫の鍵の番号を探り当ててほしいと言われ…。図書室に持ち込まれる謎に、ふたりの男子高校生が挑む。全 6 編を収録。『小説すばる』掲載に加筆し単行本化。

2018:12./ 296p

978-4-08-771173-8

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/02/09



司法取引<上>(新潮文庫 ク-23-33)

ジョン・グリシャム、白石 朗 著

新潮社

連邦判事殺害事件が迷宮入りかと思われた頃、冤罪で収監されていた弁護士バニスターが、真犯人を知っていると声を上げた。彼は情報と引き換えに、自らの釈放と証人保護プログラムを FBI に要求。ついに念願の出獄を果たし…。

2015:3./ 347p

978-4-10-240933-6

本体 ¥670+税



朝日新聞 2019/02/09



司法取引<下>(新潮文庫 ク-23-34)

ジョン・グリシャム、白石 朗 著

新潮社

FBI は判事殺害容疑で、麻薬関係の犯罪歴があるクインを逮捕。一方、証人保護プログラムが適用されたバニスターは、当局の監視下に置かれながらも自由な日々を過ごしていた。しかしある日、突然姿を消してしまい…。

2015:3./ 323p

978-4-10-240934-3

本体 ¥630+税



朝日新聞 2019/02/09



安楽死・尊厳死の現在～最終段階の医療と自己決定～(中公新書 2519)

松田 純 著
中央公論新社

オランダでは年間 6000 人を超え、ベルギー、スイス、米国など各国も続く合法的な安楽死。“先進”各国の実態から、尊厳死と称する日本での問題、人類の自死をめぐる思想史を繙き、「死の医療化」と言われるその実態を描く。

2018:12./ 5p,244p
978-4-12-102519-7
本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/02/09



熱帯
森見 登美彦 著
文藝春秋

沈黙読書会で見かけた奇妙な本「熱帯」。それは、どうしても「読み終われない本」だった。結末を求めて悶えるメンバーが集結し、世紀の謎に挑む! ウェブ文芸誌『マトグロッソ』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

2018:11./ 523p
978-4-16-390757-4
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/02/09



橋本治のかけこみ人生相談(幻冬舎文庫 は-2-2)

橋本 治 著
幻冬舎

壁にぶつかる人生も、たまには悪くないのかも! 仕事、不倫、親子の確執…。さまざまな悩みに対する橋本流の謎解きと意外な処方箋に、生きる気力がわいてくる。『幻冬舎 plus』連載をまとめて文庫化。

2018:12./ 216p
978-4-344-42813-3
本体 ¥540+税



朝日新聞 2019/02/09



解脱寸前～究極の悟りへの道～(幻冬舎新書 二-20-2)

小池 龍之介 著
幻冬舎

究極の悟り、すなわち「解脱」を目指して、野宿の瞑想生活に旅立った著者。10 年以上におよぶ修行の日々から得た気づきと、さらに深い修行に入る覚悟を記す。ウェブマガジン『幻冬舎 plus』連載を書籍化。

2018:11./ 220p
978-4-344-98529-2
本体 ¥780+税



朝日新聞 2019/02/09



「誇示」する教科書～歴史と道徳をめぐる～

佐藤 広美 著
新日本出版社

なぜ、このような教科書が現れたのか。また、どのような社会観や人間観によって書かれたのか。日本の歴史や文化をことさらに誇り、「誇示」する、歴史・公民・道徳教科書の教育思想的な解明を試みる。

2019:1./ 270p
978-4-406-06331-9
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/02/09



帰還～父と息子を分かつ国～

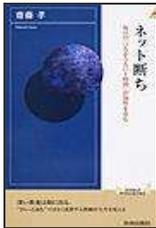
ヒシャーム・マタール、金原 瑞人、野沢 佳織 著
人文書院

1979 年リビア。反体制運動のリーダーだった父はエジプトに亡命後、拉致された。そして 2012 年、息子である著者は、故国リビアに「帰還」し…。旅の記録と共に、家族の歴史、自身の心の軌跡を綴ったノンフィクション。

2018:11./ 309p
978-4-409-13041-4
本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2019/02/09



ネット断ち～毎日の「つながらない 1 時間」が知性を育む～(青春新書 INTELLIGENCE PI-561)

齋藤 孝 著
青春出版社

1 日最低 1 時間、インターネットや SNS から離れて“本物”に触れよう。深く沈潜する読書は血肉になり、教養と品性がにじみ出る。著者が伝えたい、知的な大人へのメッセージ。自分の「体験」になる本の読み方も紹介。

朝日新聞 2019/02/09

2019:1./ 188p
978-4-413-04561-2
本体 ¥920+税



ドライブイン探訪

橋本 倫史 著
筑摩書房

道路沿いにひっそりと佇むドライブイン。クルマ社会、外食産業の激変を受けながら、ドライバーたちに食事を提供し続けた人々の人生と思いに迫る。『月刊ドライブイン』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2019/02/09

2019:1./ 315p
978-4-480-81850-8
本体 ¥1,700+税



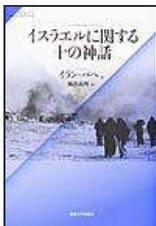
神隠し

長野 慶太 著
日本経済新聞出版社

テロ対策を強化する空港の保安検査場。厳重管理の“密室”で子供が消えた。捜査当局は手詰まり、親は空港を訴える。そして、事件を追う記者が辿り着いたのは…。日米を舞台に、家族の喪失と再生を描くヒューマンミステリー。

朝日新聞 2019/02/09

2013:2./ 317p
978-4-532-17121-6
本体 ¥1,500+税



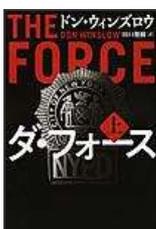
イスラエルに関する十の神話(サピエンティア 55)

イラン・パペ 著
法政大学出版局

パレスチナは民なき地ではなかったし、ユダヤ人は国なき民ではなかった…。イスラエル・パレスチナ問題に関わる、議論の余地がないと公的に表明されている神話に挑戦。中東現代史における欺瞞を暴き、共存の道を新たに描く。

朝日新聞 2019/02/09

2018:11./ 295p,6p
978-4-588-60355-6
本体 ¥3,400+税



ダ・フォース<上>(ハーパーBOOKS M・ウ 3・1)

ドン・ウィンズロウ、田口 俊樹 著
ハーパーコリンズ・ジャパン

麻薬や銃による犯罪を取り締まるマンハッタン・ノース特捜部、通称“ダ・フォース”。この街を統べる刑事の王マローンは、ドミニカ人麻薬組織の手入れの際におこなったある行動をきっかけに、転落の道をたどりはじめ…。

朝日新聞 2019/02/09

2018:3./ 494p
978-4-596-55081-1
本体 ¥972+税



ダ・フォース<下>(ハーパーBOOKS M・ウ 3・2)

ドン・ウィンズロウ、田口 俊樹 著
ハーパーコリンズ・ジャパン

ダ・フォースの中に裏切り者がいる。FBI が極秘裏に捜査するなか、1 人の刑事が拳銃自殺を遂げた。一方、街場ではギャング、マフィアの権力抗争が激化していた。哀哭の街でマローンたちを待ち受ける血みどろの結末とは。

朝日新聞 2019/02/09

2018:3./ 471p
978-4-596-55082-8
本体 ¥972+税





科学史ひらめき図鑑～世界を変えた科学者 70 人のブレイクスルー～

杉山 滋郎、スペースタイム 著
ナツメ社

古代から現代に至る 70 人の科学者や技術者を紹介。人物ごとに歴史的な発見や発明に至るまでの努力や苦悩、発見や発明につながったひらめき、その後の世界に与えた影響などを、イラストでわかりやすく解説する。

2019:1./ 319p
978-4-8163-6583-6
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/09



私鉄 3.0～沿線人気 NO.1 東急電鉄の戦略的ブランディング～(ワニブックス|PLUS|新書 247)

東浦 亮典 著
ワニブックス

私鉄が目指すべきさらなる「未来=3.0」とは。東急電鉄の都市開発部門で社歴を重ねてきた著者が、顧客との決済やポイントを基盤とした新たなサービス、次に来る新しいモビリティ、ベンチャー企業支援などについて語る。

2018:12./ 223p
978-4-8470-6618-4
本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/02/09



逆境だらけの人類史～英雄たちのあっぱれな決断～(NATIONAL GEOGRAPHIC IC)

ビル・プライス、定木 大介、吉田 旬子 著
日経ナショナルジオグラフィック社

困難に直面し、八方塞がりに陥っても、人類は大英断を下して歴史を動かした！ 初期人類が作った最初の石器から、ベルファスト合意の締結まで、歴史上の 47 の大英断を写真や絵画を交えて紹介する。

2019:1./ 223p
978-4-86313-426-3
本体 ¥2,600+税



朝日新聞 2019/02/09

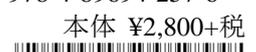


アクセサリーの歴史事典<上> 頭部・首・肩・ウエスト

K.M.レスター、B.V.オーク、古賀 敬子 著
八坂書房

古代から 20 世紀半ばまで、時代のファッションと共に移り変わる西洋の装飾品を、アクセサリーごとに概観する事典。上は、帽子、ネックレス、襟、ネクタイなど、主に上半身につける 19 種類を、650 点の図版とともに収載。

2019:1./ 190p 図版
32p
978-4-89694-257-6
本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/02/09



しょぼい起業で生きていく

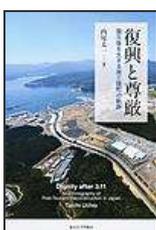
えらいてんちょう 著
イースト・プレス

組織で働くのが無理なら起業しよう。従来の「起業」というイメージとは全く別の、多額の開業資金も特殊な技能も綿密な事業計画もいらぬ「しょぼい起業」という新しい考え方と、その方法を紹介する。Pha らとの対談も収録。

2018:12./ 238p
978-4-7816-1733-6
本体 ¥1,300+税



朝日新聞 2019/02/09、朝日新聞 2019/02/23



復興と尊厳～震災後を生きる南三陸町の軌跡～

内尾 太一 著
東京大学出版会

東日本大震災の被災地を 5 年の長期にわたり深層から描いた復興過程の記録。被災直後の生活再建から、町の将来像をめぐる住民の議論まで、変化する復興のステージを刻々と描き、「尊厳」という新たな視座を浮かび上がらせる。

2018:11./
9p,272p,22p
978-4-13-056117-4
本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/02/09、読売新聞 2019/02/10



クネレルのサマーキャンプ

エトガル・ケレット、母袋 夏生 著
河出書房新社

自殺者だけが集まる世界でかつての恋人を探すハイムは、親友アリとヒッチハイカーの美女リヒとともに旅に出て…。表題作ほか、シュールな笑いと切ない情愛を醸しだす、イスラエル人作家の 31 の中短篇を収録する。

朝日新聞 2019/02/09、読売新聞 2019/02/17

2018:11./ 200p
978-4-309-20759-9
本体 ¥1,950+税



ミステリーで読む戦後史(平凡社新書 901)

古橋 信孝 著
平凡社

敗戦後の復興の光と影のなかで書かれた「ゼロの焦点」、高度成長期へと続く時代のなかで生み出された「海の牙」…。ミステリーは戦後社会をどう捉えてきたか。まったく新しい読み方で、10年ごとに時代を振り返る。

朝日新聞 2019/02/09、読売新聞 2019/02/24

2019:1./ 287p
978-4-582-85901-0
本体 ¥940+税



芸の心～能狂言終わりなき道～

野村 四郎、山本 東次郎、笠井 賢一 編
野村 四郎、山本 東次郎 著
藤原書店

世界最古の歴史を誇る伝統芸能である「能」と「狂言」。傘寿を超え、日々優れた舞台を精力的に生み出している 2 人が、修行時代、先達からの教え、伝統と型、次世代への思いを縦横に語る。能・狂言の歴史、舞台作品解説も収録。

朝日新聞 2019/02/09、日本経済新聞 2019/02/16

2018:11./ 228p
978-4-86578-198-4
本体 ¥2,800+税



W 県警の悲劇

葉真中 顕 著
徳間書店

「警察官の鑑」と誰からも尊敬されていた熊倉警部。W 県警初の女性警視へと登りつめた松永菜穂子は、彼にある極秘任務を与えていた。だが、その最中に熊倉警部は突然死し…。『読楽』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

朝日新聞 2019/02/10

2019:1./ 298p
978-4-19-864752-0
本体 ¥1,600+税



殺人鬼がもう一人

若竹 七海 著
光文社

20 年ほど前の連続殺人事件以来、事件らしい事件もないのだかな町・辛夷ヶ丘に、次々起こる大事件。悪徳(?)警察官の砂井三琴は今日も大忙しで…。連作ミステリー。『宝石ザミステリー』等掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

朝日新聞 2019/02/10

2019:1./ 317p
978-4-334-91261-1
本体 ¥1,500+税



JR～JR FAMILY OF COMPANIES～

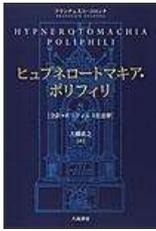
ウィリアム・ギャディス 著
国書刊行会

11 歳の少年 JR が企業グループを築いてアメリカ株式市場に参入。だが間もなく彼の手には負えなくなり、コングロマリットと化し大暴走。数多の企業や人々を巻き込み、世界経済に大波乱を巻き起こし…! 金融ブラックコメディ。

朝日新聞 2019/02/10

2018:12./ 939p
978-4-336-06319-9
本体 ¥8,000+税





ヒュペネロトマキア・ポリフィリ～全訳・ポリフィルス狂恋夢～

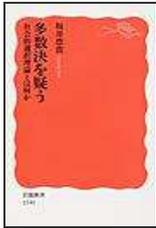
フランチェスコ・コロンナ、大橋 喜之 著
八坂書房

恋人ポリアを求めつつ眠りに落ちたポリフィロは、象徴と寓意の世界を彷徨し、やがて恋人と結ばれるが…。名うての愛書家たちを虜にした世紀の奇書の原典訳。原著初版掲載の木版画 172 点、詳細な註・解説なども収録。

2018.12./ 7p,845p
978-4-89694-255-2
本体 ¥6,900+税



朝日新聞 2019/02/10



多数決を疑う～社会的選択理論とは何か～(岩波新書 新赤版 1541)

坂井 豊貴 著
岩波書店

選挙制度の欠陥と綻びが露呈する現在の日本。多数決は本当に国民の意思を反映しているのか?社会的選択理論の視点から、人びとの意思をよりよく集約できる選び方のルールをさぐる。

2015.4./ 12p,180p
978-4-00-431541-4
本体 ¥760+税



朝日新聞 2019/02/16



ヤンキー君と白杖ガール<1>(MFC)

うおやま 著
KADOKAWA

街を牛耳る最恐ヤンキー・黒川森生(18)と 盲学校高等部に通う「弱視」の赤座ユキコ(16)。出会ってしまった運命のふたりー!累計 350 万 PV 突破の話題作がついに単行本化!描き下ろしおまけ漫画も収録。

2019.1./ 201p
978-4-04-065485-0
本体 ¥650+税



朝日新聞 2019/02/16



あひる(角川文庫 い 100-1)

今村 夏子 著
KADOKAWA

あひるを飼うことになった家族と学校帰りに集まってくる子供たち。幸せな日常の危うさを描いた表題作と、揺れ動く子供たちの心の在りようを鋭く描く「おばあちゃんの家」「森の兄妹」の全3編を収録。

2019.1./ 173p
978-4-04-107443-5
本体 ¥520+税



朝日新聞 2019/02/16



『サトコとナダ』から考えるイスラム入門～ムスリムの生活・文化・歴史～(星海社新書 145)

椿原 敦子、黒田 賢治 著
星海社

イスラムの成り立ちや暮らしを紹介し、教徒に対するステレオタイプなイメージをリセットしてよりよいお付き合いのためのヒントを探る。イスラム文化との交流を描いた 4 コママンガ「サトコとナダ」も一部収録。

2018.12./ 205p
978-4-06-514477-0
本体 ¥980+税



朝日新聞 2019/02/16



明夫と良二(講談社文芸文庫 し A14)

庄野 潤三 著
講談社

磊落な浪人生の兄と、気立ての優しい中学生の弟。ふたりのおかしみに満ちたやりとりを見守る姉は、間もなく嫁いでゆく…。作家一家の何気ない一瞬に焼き付けられた、はかなく移ろいゆく幸福なひとときを描いた家族小説の傑作。

2019.2./ 311p
978-4-06-514722-1
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/16



冷血<上>(新潮文庫 た-53-16)

高村 薫 著
新潮社

求人サイトを通じて顔を合わせたばかりの男たちが、一家殺害という凶行におよぶ。数多の痕跡を残しながら、逃走する犯人たち。翻弄される警察組織の中で、合田雄一郎がふたたび動き出す…。生と死、罪と罰を問い直す長篇小説。

朝日新聞 2019/02/16

2018:11./ 475p
978-4-10-134725-7
本体 ¥710+税



冷血<下>(新潮文庫 た-53-17)

高村 薫 著
新潮社

容疑者はすでに犯行を認め、事件は容易に「解決」へ向かうと思われたが、二転三転する供述。幾層にも重なっていく真実。都市の外れに広がる「荒野」を前に合田が抱いた決意とは？ 生と死、罪と罰を問い直す長篇小説。

朝日新聞 2019/02/16

2018:11./ 440p
978-4-10-134726-4
本体 ¥670+税



贖罪(新潮文庫 マ-28-5)

イアン・マキューアン 著
新潮社

まだ戦争が始まる前、地方の旧家で暮らしていた私にとって、世界は無限に開けていた。あの暑い夏の日が来るまでは。いくつかの誤解、取り返しのかかぬ事件、戦争と欺瞞。無垢な少女が狂わせてしまった生を描く大河小説。

朝日新聞 2019/02/16

2019:1./ 637p
978-4-10-215725-1
本体 ¥840+税



読書間奏文

藤崎 彩織 著
文藝春秋

「SEKAI NO OWARI」のメンバーで、直木賞候補作「ふたご」の著者でもある藤崎彩織が、本を通して、自身のターニングポイントを綴った初エッセイ。『文學界』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

朝日新聞 2019/02/16

2018:12./ 189p
978-4-16-390942-4
本体 ¥1,300+税



資本主義の歴史～起源・拡大・現在～

ユルゲン・コッカ、山井 敏章 著
人文書院

歴史学の大家による資本主義通史。その起源から現代の金融資本主義に至る長大な歴史と、アダム・スミス、マルクス、ヴェーバーからシュンペーター、ポメラントツに至る広範な分析理論を、コンパクトにまとめる。

朝日新聞 2019/02/16

2018:12./ 3p,221p
978-4-409-51080-3
本体 ¥2,200+税



共通語の世界史～ヨーロッパ諸言語をめぐる地政学～

クロード・アジェージュ、糟谷 啓介、佐野 直子 著
白水社

ヨーロッパに息づく少数言語から、アメリカで息まく連合言語まで！ ことばが、多様な民族間で「シェアされてきた歴史」を語る。言語分布地図・言語名索引付き。

朝日新聞 2019/02/16

2018:11./ 357p,9p
978-4-560-09659-8
本体 ¥4,600+税





お金の流れで読む日本と世界の未来～世界的投資家は予見する～(PHP 新書 1172)

ジム・ロジャーズ 著

PHP研究所

日本再興への道、朝鮮半島に訪れる劇的な未来…。世界的投資家は、日本と東アジア経済の未来をどう見るのか。「5年後、アジアで1番幸せな国はどこか?」をテーマに、日中韓の将来を「お金の流れ」から鮮やかに読み解く。

2019:1./ 237p
978-4-569-84221-9

本体 ¥920+税



朝日新聞 2019/02/16



府中三億円事件を計画・実行したのは私です。

白田 著

ポプラ社

ようやく心を決めました。この場を借りて、ひとつの告白をさせていただきます。府中三億円事件を計画、実行したのは私です。事件発生から50年、ネットに投稿された小説。

2018:12./ 239p
978-4-591-16126-5

本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/02/16



事典 古代の祭祀と年中行事

岡田 莊司 編

吉川弘文館

古来、国家鎮護・安泰のため、天皇や社寺によって行われてきた神祇祭祀と仏教法会。恒例祭祀・臨時祭祀・法会などを厳選して全60件を収録し、最新研究にもとづき平易に解説する。図版も豊富に収録し、年表・索引を付す。

2019:1./
10p,422p,12p
978-4-642-01478-6

本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/02/16



アジアの平和と核～国際関係の中の核開発とガバナンス～

広島市立大学広島平和研究所 編

共同通信社

アジアは平和地帯へ移行しているのか、後退しているのか。核兵器の開発に向かう国を取り巻く国際関係から、人間を抑圧し安全を脅かす非民主的政府のガバナンスの有りようを分析。アジアの地域平和の行方を考察する。

2019:1./ 335p
978-4-7641-0710-6

本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/02/16



アナログの逆襲～「ポストデジタル経済」へ、ビジネスや発想はこう変わる～

デイビッド・サックス、加藤 万里子 著

合同出版

リアルなモノや体験が大好きな新世代、「アナログ発想」を重視するデジタル有力企業「GAFA」など、なぜいまアナログが世界中で再注目され、ヒットしているのか。アナログの隠れた力を明らかにし、大転換の深層を読み解く。

2018:12./ 393p
978-4-7726-9562-6

本体 ¥2,100+税



朝日新聞 2019/02/16



その部屋のなかで最も賢い人～洞察力を鍛えるための社会心理学～

トーマス・ギロビッチ、リー・ロス、小野木 明恵 著

青土社

「賢い人」はどのようにして、正しく判断しているのだろうか? 社会心理学の第一人者らが、人間の認識と行動に見られる基本的なパターンを紹介したうえで、個人や社会が直面する問題への賢い対処法を説く。

2018:12./ 364p,12p
978-4-7917-7132-5

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/02/16



へんちくりん江戸挿絵本(インターナショナル新書 034)

小林 ふみ子 著
集英社インターナショナル

遊里に遊ぶ神仏、おかしな春画、トンデモ実用書…。江戸時代の黄表紙、滑稽本、狂歌本、春本などにみられる、日本美術の範疇からこぼれ落ち、忘れられていた貴重な「へんな挿絵」100点以上を掲載し、見所を解説する。

2019:2./ 252p
978-4-7976-8034-8
本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/02/16



謎のカラスを追う～頭骨とDNA が語るカラス 10万年史～

中村 純夫 著
築地書館

ハシブトガラスには2亜種がいる。その2種が交雑した第3のカラスの存在を確かめるため、フリーランスの鳥類学者が単身、サハラに乗り込んだ！研究過程と成果をノンフィクション小説の形式で著した一冊。

2018:11./ 268p 図版
12p
978-4-8067-1572-6
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/02/16



希望を捨てない市民政治～吉野川可動堰を止めた市民戦略～

村上 稔 著
緑風出版

ふつうの市民が政治を変えられる！吉野川の可動堰計画に反対する市民運動をきっかけに政治に関わるようになった著者が、運動の戦略と経緯を綴るとともに、絶望を希望に変えるための市民政治とはどのようなものか考える。

2013:5./ 197p
978-4-8461-1310-0
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/02/16



北斎の肉筆～スミソニアン協会フリーア美術館コレクション～

葛飾 北斎、ジェームス・ユーラック、フランク・フェルテンズ 著
青幻舎

葛飾北斎の肉筆画コレクションとして世界最大の質と量を誇るスミソニアン協会フリーア美術館のコレクションから、肉筆と素描の名品約100点を厳選。部分図説も駆使した、北斎の筆の秘密を堪能できる一冊。折り込み頁あり。

2018:12./ 151p
978-4-86152-709-8
本体 ¥2,600+税



朝日新聞 2019/02/16



代表制という思想(選書<風のビブリオ> 1)

早川 誠 著
風行社

「国の規模が大きくなったので、やむなく代表制が採られている」「代表制は直接民主主義の次善策」という“直接民主主義”の神話を根底から問い直す。

2014:6./ 210p,4p
978-4-86258-084-9
本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2019/02/16



中村桂子コレクション～いのち愛づる生命誌～<5> 12歳の生命誌

中村 桂子 著
藤原書店

生命科学をやさしく語り、美しく表現する思想を“生命誌研究館”として実現した中村桂子の多岐にわたる仕事を集大成。5は、DNA、細胞、ゲノムから見た「いのち」を語る。養老孟司による解説も収録。

2019:1./ 291p
978-4-86578-197-7
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/02/16



日本を彩る香りの記憶(阪大リーブル 68)

内野 花 著
大阪大学出版会

古来、人々は香りを追い求め、また、衝き動かされながら、現代の私たちにつづく豊かな香りを紡いできた。祈りや美意識、生命の輝きをとおして、さまざまに日本の歴史に刻まれてきた香りの記憶を、物語や史実のなかにたどる。

2019.1./ 226p
978-4-87259-636-6
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/02/16



ある若き死刑囚の生涯(ちくまプリマー新書 317)

加賀 乙彦 著
筑摩書房

罪を見つめ、罪を引き受けるとはどういうことか。死を受け入れ、乗り越えて生きることが可能か。1968年の横須賀線爆破事件の犯人である死刑囚と親密な交流をもった作家が、豊富な資料をもとにその姿を描き出す。

2019.1./ 223p
978-4-480-68342-7
本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/02/16、読売新聞 2019/02/24



吃音の世界(光文社新書 986)

菊池 良和 著
光文社

言葉に詰まること=悪いこと? 幼少期から吃音で悩み苦しんできた医師が、自身の吃音体験談や吃音の発症の原因、吃音治療の歴史と現在、そして吃音外来で接した患者の事例を交えて、私達が多様な社会を生きるヒントを伝える。

2019.1./ 222p
978-4-334-04392-6
本体 ¥800+税



朝日新聞 2019/02/16、日本経済新聞 2019/02/16



犬であるとは どういうことか～その鼻が教える匂いの世界～

アレクサンドラ・ホロウィッツ、竹内 和世 著
白揚社

犬があなたの体に鼻を寄せたとき、いったい何を嗅ぎ、何に気づいているのか? 犬の認知行動の権威である著者が、ユニークな観察をとおして、匂いで世界を知ること=「犬であること」を明らかにする。

2018.12./ 346p
978-4-8269-0206-9
本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/02/16、日本経済新聞 2019/02/16



在宅無限大～訪問看護師がみた生と死～(シリーズケアをひらく)

村上 靖彦 著
医学書院

病院に変えられた「死」は、再びその姿を変えている。現在の在宅死は、訪問看護師たちが「再発明」したものである。看護師たちの語りを通して、彼らの経験と看護のポテンシャルを明らかにする。テキストデータ引換券付き。

2018.12./ 253p
978-4-260-03827-0
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/02/16、日本経済新聞 2019/02/23



こんとん

偕成社

いつも空を見上げて笑っている、こんとん。目も耳も鼻も口もないこんとんに、帝たちは…。中国神話に登場する不思議なきもの「こんとん」の伝説をもとに、夢枕獏と松本大洋が創りだした切なくも愛しい物語。

2019.1./ 41p
978-4-03-332890-4
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/02/23



トラペジウム

高山 一実 著
KADOKAWA

絶対にアイドルになりたい高校 1 年生の東ゆうは、「4 つのこと」を徹底して高校生活を送っているが...。「乃木坂 46」のメンバーが描く、アイドルを目指す女の子の 10 年
間。『ダ・ヴィンチ』連載を単行本化。

朝日新聞 2019/02/23

2018:11./ 237p
978-4-04-068696-7
本体 ¥1,400+税



宇宙の覇者ベゾス vs マスク

クリスチャン・ダベンポート、黒輪 篤嗣 著
新潮社

米国の宇宙事業の復活を牽引したふたりの億万長者、イーロン・マスクとジェフ・ベゾス。墜落事故、ロケットの爆発、破壊工作疑惑、訴訟、政治闘争...。マスクとベゾスを中心に、新たな宇宙開発競争の最前線を描く。

朝日新聞 2019/02/23

2018:12./ 395p
978-4-10-507081-6
本体 ¥2,300+税



拳銃使いの娘(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 1939)

ジョーダン・ハーパー 著
早川書房

内気な 11 歳の少女ポリーの前に、収監されているはずの父親が現れた。父の敵がポリーの命を狙っているというのだ。父と出た逃亡の旅路で、ポリーは暴力を知り、盗みを知り、徐々に生き延びる術を身につけてゆく...

朝日新聞 2019/02/23

2019:1./ 261p
978-4-15-001939-6
本体 ¥1,700+税



ハーモニー(ハヤカワ文庫 JA)

伊藤 計劃 著
早川書房

朝日新聞 2019/02/23

2010:12./ 381p
978-4-15-031019-6
本体 ¥720+税



裏世界ピクニック～ふたりの怪異探検ファイル～(ハヤカワ文庫 JA 1264)

宮澤 伊織 著
早川書房

実話怪談として語られる危険な存在が出現する、この現実と隣合わせで謎だらけの裏世界。研究とお金稼ぎ、そして大切な人を捜すため、仁科鳥子と紙越空魚は非日常へと足を踏み入れる...。女子ふたり怪異探検サバイバル。

朝日新聞 2019/02/23

2017:2./ 317p
978-4-15-031264-0
本体 ¥780+税



天眞の標<10[PART3]> 青葉よ、豊かなれ(ハヤカワ文庫 JA 1362)

小川 一水 著
早川書房

羊と猿と百擲の銀河の彼方より伝わる因縁、人類史上最悪の宿怨を乗り越え、新世界ハープ C より再興した地で、絶望的なジャイアント・アークの下、ヒトであるヒトとないヒトとともに私たちは願う。シリーズ完結篇、最終巻。

朝日新聞 2019/02/23

2019:2./ 405p
978-4-15-031362-3
本体 ¥800+税





はな、茶の湯に出会う

はな 著
淡交社

茶の湯の世界は、日本をもっと好きになるための道しるべ。モデルのはなが、裏千家茶道教授や表具師、和菓子職人、数寄屋建築家らと対談。茶の湯の世界や日本文化の奥深さ、楽しさを紹介する。『淡交』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2019/02/23

2019:1./ 191p
978-4-473-04276-7
本体 ¥1,600+税



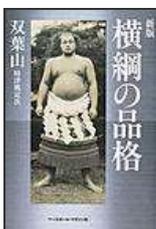
ケイレブ〜ハーバードのネイティブ・アメリカン〜

ジェラルディン・ブルックス、柴田 ひさ子 著
平凡社

初期ハーバード大学には、ネイティブ・アメリカンのケイレブという学生がいた-。史実を基に、白人キリスト教少女の目を通して、アメリカ社会を描いた物語。森本あんりによる解題付き。

朝日新聞 2019/02/23

2018:12./ 447p
978-4-582-83791-9
本体 ¥2,800+税



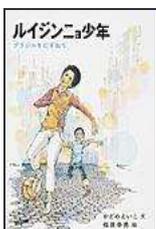
横綱の品格 新版

双葉山(時津風定次) 著
ベースボールマガジン社

力士には鍛えられた「大きさ」が求められる。かつて日本国中の憧れの的だった屈指の大横綱・双葉山(時津風定次理事長)が、自分の人生を淡々と振り返りつつ相撲求道の軌跡を示した名著を復刊。

朝日新聞 2019/02/23

2018:2./ 177p
978-4-583-11145-2
本体 ¥1,600+税



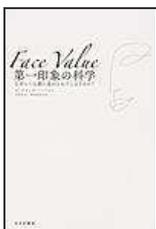
ルイジニョ少年〜ブラジルをたずねて〜

かどの えいこ、福原 幸男 著
ポプラ社

ポルトガル語を教えてくれたルイジニョ少年、多様な人々との生き生きした交流…。1959年に自費移民としてブラジルに渡航し、2年間滞在した経験を、みずみずしい筆致で描く。書き下ろしエッセイも収録。

朝日新聞 2019/02/23

2019:1./ 132p
978-4-591-16118-0
本体 ¥1,800+税



第一印象の科学〜なぜヒトは顔に惑わされてしまうのか?〜

アレクサンダー・トドロフ、中里 京子、作田 由衣子 著
みすず書房

選挙結果は顔つきで予測できる。赤ちゃんはすでに信頼できる人を知っている。人は自分の部族のメンバーに似た者を信用する…。印象の数学的モデルを構築することによって、数々の成果をあげてきた研究者による顔研究。

朝日新聞 2019/02/23

2019:1./ 334p,59p
978-4-622-08762-5
本体 ¥3,800+税



その魔球に、まだ名はない

エレン・クレイジス、橋本 恵 著
あすなろ書房

10歳にしてインテリの剛腕少女ゴードンは、独自の魔球を編み出した。無敵のピッチャーとして活躍していたが、その野球人生には大きな壁が! 抜群の調査能力で、ゴードンは明るみにされていなかった真実を知り…。

朝日新聞 2019/02/23

2018:11./ 263p
978-4-7515-2934-8
本体 ¥1,400+税





病者障害者の戦後～生政治史点描～

立岩 真也 著
青土社

国立療養所という、日本最大の病・障害の現場にまつわる膨大な言説を収集し、筋ジストロフィー症や重症心身障害、サリドマイド禍など、政策の課題ともされてきた病・障害の現代史を描く。『現代思想』連載をもとに書籍化。

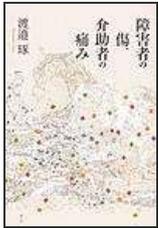
2018.12./ 476p,43p

978-4-7917-7120-2

本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2019/02/23



障害者の傷、介助者の痛み

渡邊 琢 著
青土社

相模原障害者殺傷事件は社会に何を問いかけたのか。障害のある人とない人がともに地域で生きていくために何ができるのか。障害者介助に携わる著者が、介助者の言葉を紹介しながら、介助と社会の未来に向けて言葉をつむぐ。

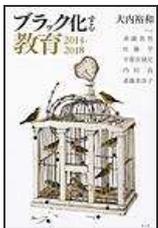
2018.12./ 392p

978-4-7917-7122-6

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/02/23



ブラック化する教育<2014-2018>

大内 裕和、斎藤 貴男 著
青土社

疲弊する現場、「自己責任」のリアル、政策の不条理…。新自由主義と国家主義が猖獗をきわめる教育の現場の「いま」と、そこにいたるまでの系譜をたどる。『現代思想』掲載の対談を収録。

2018.12./ 250p

978-4-7917-7125-7

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/02/23



図解はじめて学ぶみんなの政治

アレックス・フリス、ロージー・ホア、ルイ・ストウエル、ケラン・ストーバー、ヒューゴ・ドローション、ダニエル・ヴィーホフ、浜崎 絵梨、国分 良成 著
晶文社

世界 14 カ国で人気の、子どもから大人まで楽しめる政治入門書。「戦争は正当化できる?」「言論の自由ってどこまで許されるの?」など、身近なもめ事から国際問題まで、政治のしくみを豊富なイラストでいきいきと解説する。

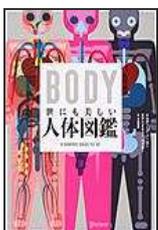
2019.1./ 127p

978-4-7949-6999-6

本体 ¥1,750+税



朝日新聞 2019/02/23



世にも美しい人体図鑑

スティーブ・パーカー、アンドリュー・ベイカー、千葉 啓恵 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン

すべての人にとって最も身近で最も謎多き存在、それが人体。なぜ数十兆の細胞が1人の「人間」になるのか? なぜ病気の原因を特定できるのか? 100のインフォグラフィックで人体の仕組みと働きを解き明かす。

2018.12./ 225p

978-4-7993-2407-3

本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/02/23



わるい食べもの

千早 茜 著
ホーム社

「いい食べもの」はもうたくさん。自由こそ至高の美味である-。幼少期をアフリカで過ごした小説家による、気高き毒気冴えわたる異色の食エッセイ。ホーム社文芸図書WEBサイト『HB』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

2018.12./ 200p

978-4-8342-5325-2

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/02/23



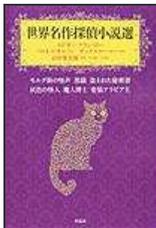
相撲道とは何か(ロング新書)

大鵬 著
ロングセラーズ

相撲の美学や、歴史と伝統が培ってきた、厳格なまでに制度化された礼儀と品格を通して、相撲とは何か、力士が追求してやまない相撲道とは何かを見直し、それを通して、日本人が人として備えるべき礼節と品格を改めて考える。

朝日新聞 2019/02/23

2007:11./ 246p
978-4-8454-0795-8
本体 ¥905+税



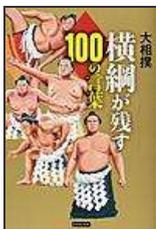
世界名作探偵小説選

エドガー・アラン・ポー、バロネス・オルツイ、サックス・ローマー、山中 峯太郎、平山雄一 著

作品社
「名探偵ホームズ全集」全作品翻案で知られる山中峯太郎によるホームズ以外の探偵小説を集め、原典と比較し、彼特有の手法を明らかにするとともに、翻案の楽しさを紹介。「黒猫」「魔人博士」等全6作を詳細な註つきで収録。

朝日新聞 2019/02/23

2019:1./ 638p
978-4-86182-734-1
本体 ¥6,800+税



大相撲横綱が残す100の言葉

横綱名言研究会 編
カンゼン

「強い人は大関になる。宿命のある人が横綱になる」「プロはいかなる時でも、言い訳をしない」「努力で天才に勝ちます」格別な重みを持つ、平成と昭和の横綱たち・名力士の言葉を紹介する。

朝日新聞 2019/02/23

2017:7./ 223p
978-4-86255-411-6
本体 ¥1,500+税



信仰と医学～聖地ルルドをめぐる省察～(角川選書 609)

帯木 蓬生 著
KADOKAWA

カトリックの聖地フランス・ルルド。病気が治癒すると言われる不可思議な泉を、作家であり現役精神科医でもある著者が実際に取材し徹底検証する。ルルド体験を通じて信仰と医学の関係性を多角的に論じる一冊。

東京・中日新聞 2019/02/03

2018:11./ 300p
978-4-04-703608-6
本体 ¥1,600+税



安倍官邸 vs. NHK～森友事件をスクープした私が辞めた理由～

相澤 冬樹 著
文藝春秋

「森友事件」をスクープした NHK 記者が、異動を命じられた! 政権を揺るがす疑惑と巨大組織内に強まる圧力-その狭間で最後まで戦い続けた著者が、森友事件の真の問題点を明らかにする。

東京・中日新聞 2019/02/03

2018:12./ 302p
978-4-16-390957-8
本体 ¥1,500+税



仏教抹殺～なぜ明治維新は寺院を破壊したのか～(文春新書 1198)

鶴飼 秀徳 著
文藝春秋

隠された明治の暗部、廃仏毀釈。神社と寺院を分離する政策が、なぜ史上稀な宗教攻撃、文化財破壊にエスカレートしたのか。鹿児島、松本、伊勢、東京、奈良、京都など、日本各地を徹底取材し、埋もれた歴史を掘り起こす。

東京・中日新聞 2019/02/03

2018:12./ 251p
978-4-16-661198-0
本体 ¥880+税





釜ヶ崎合唱団～労働者たちが波乱の人生を語った～

釜ヶ崎炊き出しの会 著
ブレーンセンター

望郷の念、亡き母への思慕、叶えられなかった夢…。様々な思いを胸に秘め、日々仕事に励む大阪・釜ヶ崎の労働者たちが、波乱の人生を語る。「釜ヶ崎炊き出しの会」機関誌『絆通信』掲載記事を書籍化。

2018:11./ 517p
978-4-8339-0552-7
本体 ¥2,500+税



東京・中日新聞 2019/02/03



保育の自由(岩波新書 新赤版 1752)

近藤 幹生 著
岩波書店

2015 年から開始された子ども・子育て支援新制度や、2018 年から導入された「新指針」を正面から検討。「保育の自由」という理念的な課題を提起する著者の実践例も紹介しつつ、これからの保育の在り方を提案する。

2018:12./ 9p,205p
978-4-00-431752-4
本体 ¥780+税



東京・中日新聞 2019/02/10



承久の乱～真の「武者の世」を告げる大乱～(中公新書 2517)

坂井 孝一 著
中央公論新社

後鳥羽上皇は無謀にも鎌倉幕府打倒を企て、返り討ちにあったのか？ 公武の力関係を劇的に変え、中世社会のあり方を決定づけた大事件「承久の乱」を、理解しやすいよう現代社会と比較しながら描き出す。

2018:12./ 6p,277p
978-4-12-102517-3
本体 ¥900+税



東京・中日新聞 2019/02/10



江戸の古本屋～近世書肆のしごと～

橋口 侯之介 著
平凡社

江戸時代の出版社たる版元=本屋の経営基盤は、古書の売買だった。本屋仲間の実態、本替などの商習慣、セドリと書物の還流…。多様な史料を用いて、書物をめぐる商売の実態に迫る。『日本古書通信』連載を加筆し単行本化。

2018:12./ 335p
978-4-582-46822-9
本体 ¥3,800+税



東京・中日新聞 2019/02/10



戦争と図書館～英国近代日本語コレクションの歴史～

小山 騰 著
勉誠出版

英国 4 大日本語コレクションのうちの 2 大コレクションに当たるケンブリッジ大学図書館とロンドン大学東洋アフリカ学院図書館が、日本との戦争を契機に近代日本語コレクションを確立した経緯を明らかにする。

2018:11./ 4p,289p,7p
978-4-585-20066-6
本体 ¥3,800+税



東京・中日新聞 2019/02/10



ゴールデン街コーリング

馳 星周 著
KADOKAWA

1985 年、新宿ゴールデン街のバーで働く坂本は、ある日放火の現場に遭遇する。親しくしている「ナベさん」が取り締まりのため見回りを始めるが…。ゴールデン街での青春を描く自伝的小説。『本の旅人』連載を加筆し書籍化。

2018:12./ 381p
978-4-04-107001-7
本体 ¥1,600+税



東京・中日新聞 2019/02/17

**西欧の東(エクス・リブリス)**ミロスラフ・ペンコフ 著
白水社

1969年、脳梗塞で倒れた妻とともに介護施設に入居する71歳の主人公。彼が偶然発見したのは...。「マケドニア」をはじめ、過去と現在を行き来しながら紡がれる8つの物語。ブルガリア出身の新鋭によるデビュー短篇集。

東京・中日新聞 2019/02/17

2018.10./ 306p
978-4-560-09271-2
本体 ¥2,800+税**ゴンゾオ叔父(銀河叢書)**小沼 丹 著
幻戯書房

静かな村に暮らす叔父や伯母。戦地で死んだ親友。空襲と焼跡...。「追憶の作家・小沼丹」を育てた原風景の数々。戦中の修業時代から「第三の新人」として活躍するまでの初期短篇を初書籍化。表題作ほか全10篇を収録する。

東京・中日新聞 2019/02/17

2019.1./ 309p
978-4-86488-162-3
本体 ¥4,000+税**運命～文在寅自伝～**文 在寅、矢野 百合子 著
岩波書店

2012年12月の大統領選に向けて「出馬宣言」として刊行された、文在寅の自伝。「問題児」から「人権弁護士」への足跡、そして運命を導いた故・盧武鉉大統領との歩みを綴る。書き下ろし「日本語版への序文」も収録。

東京・中日新聞 2019/02/24

2018.10./ 17p,408p
978-4-00-022239-6
本体 ¥2,700+税**ジャポニスム～流行としての「日本」～(講談社現代新書 2506)**宮崎 克己 著
講談社

19世紀に西洋を熱狂の渦に巻き込んだ日本ブームが、モダンな感性を生み出した。モネやゴッホといった著名な芸術家だけでなく、社会的な広がりの中でジャポニスムを考察。近代の美意識の源流として、日本の存在を位置づける。

東京・中日新聞 2019/02/24

2018.12./ 272p
978-4-06-514188-5
本体 ¥920+税**ミッテランの帽子(CREST BOOKS)**アントワーン・ローラン、吉田 洋之 著
新潮社

1980年代、パリ。ブラスリーに置き忘れられたミッテラン大統領の黒いフェルト帽。大統領が失くしたその帽子は、手にした人たちの運命を変えてゆく不思議な力を持っていた...。大人のための幸福な物語。

東京・中日新聞 2019/02/24

2018.12./ 195p
978-4-10-590155-4
本体 ¥1,900+税**徳川おてんば姫**井手 久美子 著
東京キララ社

徳川慶喜終焉の地・小石川区小日向第六天町にある徳川家の屋敷で生まれ育った、慶喜の孫娘・井手久美子。第六天町の暮らしから学校生活、結婚、夫の戦死と再婚、華族制度の廃止後までを綴った、波乱万丈の“おてんば”自叙伝。

東京・中日新聞 2019/02/24

2018.6./ 189p
978-4-903883-29-8
本体 ¥1,600+税



近代の記憶～民俗の変容と消滅～

野本 寛一 著

七月社

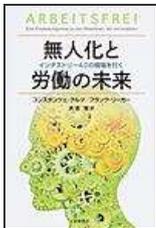
高度経済成長は日本人の価値観を大きく変え、民俗は変容と衰退を余儀なくされた。最後の木地師が送った人生、山の民俗の象徴ともいえるイロリの消滅など、人びとの記憶に眠る事象を忘却からすくいだし、記録として甦らせる。

東京・中日新聞 2019/02/24

2019:1./ 395p

978-4-909544-02-5

本体 ¥3,400+税



無人化と労働の未来～インダストリー4.0の現場に行く～

コンスタンツェ・クルツ、フランク・リーガー、木本 栄 著

岩波書店

世界に先駆けて“第四次産業革命”を打ち出し、製造現場の変革を進めるドイツ。人間が担ってきた労働は、どのくらい機械に代替されているのか。様々な分野の現場を描き、“無人化”により社会が直面する課題を浮き彫りにする。

読売新聞 2019/02/03

2018:11./ 6p,231p

978-4-00-002234-7

本体 ¥2,800+税



平成の藝談～歌舞伎の真髄にふれる～(岩波新書 新赤版 1754)

犬丸 治 著

岩波書店

ある時はさらりと、ある時はぐさりと。芸談は先人の芸への懐古憧憬であると共に、後進への叱咤鞭撻でもある。勘三郎、三津五郎、海老蔵など平成の世に輝いた名優たちの芸談を採録し、歌舞伎の芸の伝承のありかたを伝える。

読売新聞 2019/02/03

2018:12./ 11p,192p

978-4-00-431754-8

本体 ¥760+税



欲望会議～「超」ポリコレ宣言～

千葉 雅也、二村 ヒトシ、柴田 英里 著

KADOKAWA

「欲望」をテーマにこの世界を読み解けば、未来の絶望と希望が見えてくる。エロ、暴力、心の傷、変態など、性に関するさまざまな現代的事象を取り上げ、「現代の我々はどのような主体であるのか」を考察する。

読売新聞 2019/02/03

2018:12./ 270p

978-4-04-400212-1

本体 ¥1,600+税



免疫と「病」の科学～万病のもと「慢性炎症」とは何か～(ブルーバックス B-2082)

宮坂 昌之、定岡 恵 著

講談社

がん、肥満・糖尿病、認知症、うつ病…。最新の免疫学の研究で、「慢性炎症」は現代人を蝕む「万病のもと」であることがわかってきた。日本の免疫研究の指導者が慢性炎症の治療法と予防法を平易に解説する。

読売新聞 2019/02/03

2018:12./ 286p

978-4-06-514434-3

本体 ¥1,100+税



みかづき(集英社文庫 も27-4)

森 絵都 著

集英社

昭和 36 年。小学校用務員の吾郎は、勉強を教えていた児童の母親・千明に誘われ、学習塾を立ち上げる。千明と結婚し、家族になった吾郎。塾も順調に成長するが、予期せぬ波瀾が 2 人を襲い…。NHK ドラマの原作。

読売新聞 2019/02/03

2018:11./ 617p

978-4-08-745806-0

本体 ¥880+税





古墳の被葬者を推理する(中公叢書)

白石 太一郎 著
中央公論新社

箸墓古墳、五条野丸山古墳などを取り上げ、それらの造営年代に関する考古学的検証を踏まえて、被葬者と造営過程を明らかにする。さらに、物部氏、蘇我氏が営んだ族長墓の探求をとおして、最有力豪族の本拠地の変遷を考察する。

2018:11./ 326p
978-4-12-005147-0
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/02/03



自分の頭で考える(中公文庫 と12-11)

外山 滋比古 著
中央公論新社

必要なのは強くてしなやかな本物の思考力。知識メタボリックよ、さらば! 「思考の整理学」の著者が、「考えること」を日々の生活の中でどう生かせばいいのか、自身の経験をふまえて紹介する。

2013:2./ 219p
978-4-12-205758-6
本体 ¥590+税



読売新聞 2019/02/03



日本史の探偵手帳(文春文庫 い87-5)

磯田 道史 著
文藝春秋

戦国時代の最強教育、殿様のベストセラー本、乃木希典の理想の軍人像…。当代随一の歴史学者が、好奇心の赴くままに古文書を徹底調査。膨大な近世の古文書から、新時代を生き抜く知恵と人生において本当に大切なことを伝える。

2019:1./ 272p
978-4-16-791216-1
本体 ¥630+税



読売新聞 2019/02/03



赤毛のアンナ(徳間文庫 し39-2)

真保 裕一 著
徳間書店

母を亡くし、施設に引き取られた安娜は、持ち前の明るさで仲間たちを盛り上げていく。15年後、彼女が男を刺して逮捕されたとのニュースが舞いこむ。仲間たちは彼女を助けるため奔走するが…。巧手が描く青春サスペンス。

2019:1./ 444p
978-4-19-894428-5
本体 ¥750+税



読売新聞 2019/02/03



コレクション日本歌人選<078> 戦争の歌

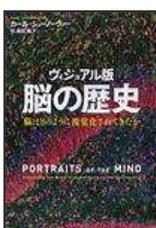
松村 正直 著
笠間書院

日本の歌の歴史に大きな足跡を残した代表的歌人の秀歌を、堪能できるように編んだアンソロジー。日清戦争から太平洋戦争までの戦争に関する 51 首を取り上げ、作者名・出典・鑑賞・脚注等を付して平明に解説する。

2018:12./ 7p,120p
978-4-305-70918-9
本体 ¥1,300+税



読売新聞 2019/02/03



脳の歴史~ヴィジュアル版~

カール・シュノーヴァー、松浦 俊輔 著
河出書房新社

豊富なカラー図版を用いて脳科学の発展史をたどる。11世紀イスラムの絵画から、最新のMRIグラフィックまで、詳細な解説とともに脳の謎を解き明かす。

2011:11./ 265p
978-4-309-25255-1
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/02/03



政治に口出しする女はお嫌いですか?～スタール夫人の言論 vs.ナポレオンの独裁～(けいそうブックス)

工藤 庸子 著

勁草書房

女性は参政権をもたず良家の子女は男性同伴でしか外出できなかった時代のフランス。会話と文章を武器にナポレオン独裁に抵抗し、自由主義思想の祖となったスタール夫人の闘いを描く。

2018.12./
19p,196p,20p
978-4-326-65417-8
本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/02/03



アートとは何か～芸術の存在論と目的論～

アーサー・C.ダントー、佐藤 一進 著

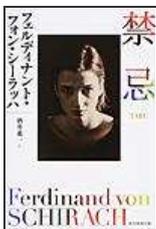
人文書院

何が作品をアートにするのか? マネ、ウォーホルなど多くの古今の傑作を取り上げ、プラトンからパースに至る美学と哲学を検証し、時空を超えて通用する「アート」の定義を提示する。現代美学に多大な影響を与えた著者の遺作。

2018.11./ 241p
978-4-409-10040-0
本体 ¥2,600+税



読売新聞 2019/02/03



禁忌(創元推理文庫 Mシ 15-4)

フェルディナント・フォン・シーラッハ、酒寄 進一 著

東京創元社

共感覚を持ち、写真家として成功したセバスティアンが、若い女性の誘拐・殺人容疑で逮捕された。捜査官に強要されて殺害を自供した彼を弁護するため、敏腕弁護士ビーグラーが法廷に立つ。裁判で暴き出される驚愕の真相とは…。

2019.1./ 260p
978-4-488-18605-0
本体 ¥800+税



読売新聞 2019/02/03



人生はどこでもドア～リヨンの14日間～

稲垣 えみ子 著

東洋経済新報社

遠い異国の地で人とつながろうと奮闘する中で見えてきた、幸せの形とは。海外旅行が苦手なのに何の準備もせず、いきなりヨーロッパへと旅立った著者が、自炊しながら滞在した美食の街フランス・リヨンでの14日間を綴る。

2018.10./ 289p
978-4-492-04637-1
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/02/03



「日本の伝統」という幻想

藤井 青銅 著

柏書房

相撲は国技、京都マジック、先祖代々之墓…。振りかざされる「伝統」をビジネスとマウンティングの観点から腑分けして読み解く、「伝統の解体新書」。「伝統」に惑わされないためのリテラシーを身につける術を伝授する。

2018.12./ 222p
978-4-7601-5050-2
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/02/03



バイオアート～バイオテクノロジーは未来を救うのか。～

ウィリアム・マイヤーズ、久保田 晃弘、岩井 木綿子、上原 昌子 著

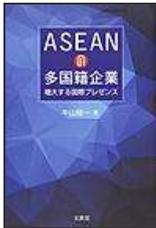
ビーエヌエヌ新社

生物学を表現メディアとして利用し、作品を通して生物学自体の意味や自然の変化に目を向ける「バイオアート」。ポストゲノム時代のバイオアートに関連する多くの作家と作品をビジュアル中心に紹介した、バイオアートの入門書。

2016.5./ 411p
978-4-8025-1019-6
本体 ¥3,400+税



読売新聞 2019/02/03



ASEANの多国籍企業～増大する国際プレゼンス～

牛山 隆一 著
文真堂

海外事業を加速し、国際プレゼンスを高めている ASEAN 企業。ASEAN 経済の新たな注目ポイントである「ASEAN 多国籍企業」90 社超を取り上げ、その実態に統計・事例の双方から迫る。

2018.12./ 13p,259p
978-4-8309-5008-7

本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/02/03



サリエーリ～生涯と作品～ 新版

水谷 彰良 著
復刊ドットコム

孤児から宮廷楽長にまでのぼりつめ、ベートーヴェン、シューベルトなど多くの逸材を育てた大作曲家サリエーリ。モーツァルト毒殺の犯人に仕立て上げられた彼の「真実の姿」を、確かな検証と詳細な研究であますところなく描く。

2019.1./ 346p,78p

978-4-8354-5624-9

本体 ¥3,700+税



読売新聞 2019/02/03



まちづくりのエスノグラフィ～《つくば》を織り合わせる人類学的実践～

早川 公 著
春風社

まちづくりは何をつくれるのか？ 筑波山麓地域でのフィールドワークから提示する、人類学的まちづくり実践。日本社会で展開される「まちづくり」活動とそれに関わる人びとを研究対象とし、文化人類学的に考察を試みる。

2018.12./ 310p,4p

978-4-86110-626-2

本体 ¥3,700+税



読売新聞 2019/02/03



ティンカリングをはじめよう～アート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ～(Make:Japan Books)

Karen Wilkinson、Mike Petrich、金井 哲夫 著
オライリー・ジャパン

「ティンカリング」とはさまざまな素材や道具、機械を「いじくりまわす」こと。凧を使った空撮、光で空中に描くアート、ウェアラブルな電子回路などの作品の、使われている手法、初心者向けの簡単な作り方を解説する。

2015.6./ 227p

978-4-87311-726-3

本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/02/03



語り継ぐいのちの俳句～3・11 以後のまなざし～

高野 ムツオ 著
朔出版

東日本大震災が俳句にもたらしたものは何か-。第一線で活躍する俳人・高野ムツオが震災後、7 年にわたって書き、語り続けてきた心揺さぶる言葉の数々を、「震災詠 100 句 自句自解」とともに収録する。

2018.10./ 205p

978-4-908978-17-3

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/02/03



1R1分34秒

町屋 良平 著
新潮社

考えすぎてばかりいる、21 歳プロボクサーのぼくは、自分の弱さに、その人生に厭きていた。駆け出しトレーナーの変わり者、ウメキチとの練習の日々が、ぼくを、その心身を、世界を変えていく。『新潮』掲載を単行本化。

2019.1./ 140p

978-4-10-352271-3

本体 ¥1,200+税



読売新聞 2019/02/03、産経新聞 2019/02/24



ニムロッド

上田 岳弘 著
講談社

やがて僕たちは、個であることをやめ、全能になって世界に溶ける…。あらゆるものが情報化する不穏な社会をどう生きるか。新時代の仮想通貨(ビットコイン)小説。『群像』掲載を単行本化。

2019:1./ 136p
978-4-06-514347-6
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/02/03、日本経済新聞 2019/02/16



車谷長吉の人生相談 人生の救い(朝日文庫 く22-2)

車谷 長吉 著
朝日新聞出版

「教え子の女子高生が恋しい」「愛猫をひき殺された恨みが治まらない」「80 近い夫がまた浮気癖を」…。『朝日新聞』土曜別刷り連載「悩みのるつぼ」に寄せられた、老若男女からの身の上相談に、車谷長吉が答える。

2012:12./ 201p
978-4-02-264693-4
本体 ¥600+税



読売新聞 2019/02/10



日本野球をつくった男-石本秀一伝

西本 恵 著
講談社

広島カープ初代監督・石本秀一。広島商業で全国制覇 4 回、大阪タイガースを 2 期連続優勝に導き、西鉄ライオンズでは稲尾和久を発掘。野球を人生の全てとして情熱をふりそそぎ、まっすぐに歩んだ 85 年間の生涯を振り返る。

2018:11./ 578p
978-4-06-513899-1
本体 ¥2,300+税



読売新聞 2019/02/10



ナショナリズム(講談社学術文庫 2533)

姜 尚中 著
講談社

憧憬と嫌悪を同時に抱かせる「ナショナリズム」の秘密を、精緻な読解で明らかにする。9・11 が勃発した 2001 年に書かれたものに、その後の 20 年間に起きた国家の枠組みの変化を踏まえ、今に接続する新稿を加える。

2018:12./ 217p
978-4-06-514092-5
本体 ¥920+税



読売新聞 2019/02/10



逃げろ、手志朗

吉森 大祐 著
講談社

幕末。何者かに惨殺された父親の仇討ちのため、心ならずも新撰組に加盟させられた会津藩士の古畑手志朗。そこは、とんでもないブラックな集団。脱走が死を意味する出口なしの牢獄だった…。

2019:1./ 254p
978-4-06-514309-4
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/02/10



早朝始発の殺風景

青崎 有吾 著
集英社

始発の電車で、放課後のファミレスで、観覧車のゴンドラの中で。不器用な高校生たちの関係が、小さな謎と会話を通じて、少しずつ変わってゆき…。短編 5 編を収録。『小説すばる』掲載にエピローグを書き下ろして書籍化。

2019:1./ 205p
978-4-08-771174-5
本体 ¥1,450+税



読売新聞 2019/02/10



この世にたやすい仕事はない(新潮文庫 つ-34-2)

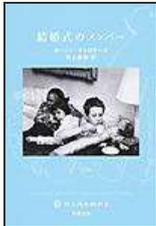
津村 記久子 著
新潮社

隠しカメラを使った小説家の監視、巡回バスのニッチなアナウンス原稿づくり…。社会という宇宙で心震わすマニアックな仕事を巡りつつ自分の居場所を探す、共感と感動のお仕事小説。

2018:12./ 424p
978-4-10-120142-9
本体 ¥670+税



読売新聞 2019/02/10



結婚式のメンバー(新潮文庫 む-6-1)

カーソン・マッカーラーズ 著
新潮社

むせかえるような緑色の夏、12歳の少女フランキーは兄の結婚式で人生が変わることを夢見た。狂おしいまでに多感で孤独な少女の心理を、繊細な文体で描き上げたマッカーラーズの最高傑作を村上春樹が新訳。

2016:4./ 332p
978-4-10-204202-1
本体 ¥590+税



読売新聞 2019/02/10



鶴見俊輔伝

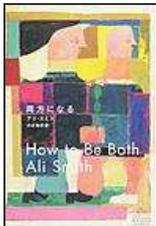
黒川 創 著
新潮社

戦後日本を代表する思想家・鶴見俊輔。幼少期から半世紀にわたり鶴見の間近で過ごした著者が、全著作と関連文献を繙き、稀代の哲学者を育んだ家と時代、「ベ平連」の活動から老年の態度まで、93年の歩みと思想を跡づける。

2018:11./ 545p,21p
978-4-10-444409-0
本体 ¥2,900+税



読売新聞 2019/02/10



両方になる(CREST BOOKS)

アリ・スミス 著
新潮社

15世紀イタリアに生きたルネサンスの画家と、母を失ったばかりの21世紀のイギリスの少女。2人の物語は時空を超えて響き合い、男と女、絵と下絵、事実と虚構の境界をも鮮やかに塗り替えていく。

2018:9./ 160p,5p
978-4-10-590152-3
本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/02/10



遠きにありて

西川 美和 著
文藝春秋

スポーツ観戦が唯一の趣味の映画監督・西川美和が、その悲喜こもごもを温かくも鋭く綴ったスポーツエッセイ。カープ愛溢れるエッセイも収録。『Sports Graphic Number』連載を書籍化。

2018:12./ 188p
978-4-16-390948-6
本体 ¥1,550+税



読売新聞 2019/02/10



誰のために法は生まれた

木庭 顕 著
朝日出版社

替えのきく人間なんて1人もいない。問題を鋭く見つけ、格闘した紀元前ギリシャ・ローマ人の古典作品などを読解し、全てを貫く原理を取り出し、法について考える。2017年に桐蔭学園で中高生のために行われた授業の記録。

2018:7./ 397p
978-4-255-01077-9
本体 ¥1,850+税



読売新聞 2019/02/10



自殺会議

末井 昭 著
朝日出版社

自殺未遂した人、自殺しようとしている人を救っている人、自殺をテーマに絵を描いている人…。自殺に縁のある人と、2013年に自殺についての本を書いた著者との会話を収録。自殺の名所等への旅のレポートも掲載する。

読売新聞 2019/02/10

2018:12./ 366p
978-4-255-01093-9
本体 ¥1,680+税



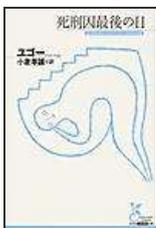
日本霊異記/今昔物語/宇治拾遺物語/発心集(池澤夏樹=個人編集 日本文学全集 第8巻)

景戒 編
鴨 長明 著
河出書房新社

池澤夏樹個人編集による日本文学全集。08 は、平安時代初期?鎌倉時代初期の説話集 4 作から、「こぶとり爺さん」の原話など、人間の欲望と無常をユーモアたっぷりに描いた説話 105 篇を収録。解説付き。

読売新聞 2019/02/10

2015:9./ 502p
978-4-309-72878-0
本体 ¥2,900+税



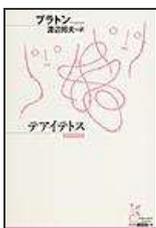
死刑囚最後の日(光文社古典新訳文庫 KAユ1-1)

ユゴー 著
光文社

刻々と迫るギロチン刑の時。独房での日々から断頭台に上がる直前まで、主人公は自らの胸の内を赤裸々に告白する。喘ぐような息づかい、押しつぶされるような絶望感。死刑制度廃止を訴えたユゴー27歳の小説。

読売新聞 2019/02/10

2018:12./ 310p
978-4-334-75390-0
本体 ¥920+税



テアイテス(光文社古典新訳文庫 KBフ2-5)

プラトン 著
光文社

知識とは何か、ほんとうに知っているとはどういうことか? 知覚、記憶、判断、真理等の哲学的主題の中で、自ら考え、学ぶことの大切さを考えさせる、老哲学者ソクラテスと若き天才数学者テアイテスによるスリリングな対話。

読売新聞 2019/02/10

2019:1./ 495p
978-4-334-75393-1
本体 ¥1,120+税



悲しみについて(津島佑子コレクション)

津島 佑子 著
人文書院

家族の生死と遠い他者の生死とをリンクして捉え、人間の想像力の可能性を押し広げた作家・津島佑子のコレクション。「泣き声」「真昼へ」など、長男の死という絶望の果てに、夢と記憶のあわいから紡いだ作品全7編を収録する。

読売新聞 2019/02/10

2017:6./ 328p
978-4-409-15029-0
本体 ¥2,800+税



**味見したい本(ちくま文庫 き 34-2)**木村 衣有子 著
筑摩書房

古川緑波「ロッパの悲食記」、滝口悠生「茄子の輝き」、獅子文六「コーヒーと恋愛」、吉田健一「酒談義」...。読むだけで目の前に料理や酒が現れるような食の名著 38 冊を味わう随筆集。

2018.12./ 259p
978-4-480-43556-9
本体 ¥740+税

読売新聞 2019/02/10

**日本全国境界未定地の事典**浅井 建爾 著
東京堂出版

いまだ境界が確定していない県境・市町村境や所属未定地を網羅し、地図とともに解説。歴史的経緯や背景がわかるものについては、その理由も示し、近年確定した湖沼の境界もあわせて取り上げる。

2019.1./ 226p
978-4-490-10906-1
本体 ¥2,500+税

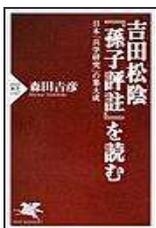
読売新聞 2019/02/10

**デリダと死刑を考える**高桑 和巳、鶴飼 哲、江島 泰子、梅田 孝太、増田 一夫、郷原 佳以、石塚 伸一 著
白水社

ソクラテスからオウム真理教まで！デリダによる脱構築を手がかりに政治と宗教の権力の力学をあぶりだし、死刑について考えるためのハンドブック。2017 年 10 月に慶應義塾大学で開催したシンポジウムの内容を元に書籍化。

2018.11./ 238p,30p
978-4-560-09671-0
本体 ¥3,000+税

読売新聞 2019/02/10

**吉田松陰『孫子評註』を読む～日本「兵学研究」の集大成～(PHP 新書 1167)**森田 吉彦 著
PHP研究所

維新を導いた兵学者・吉田松陰が晩年に松下村塾で講義し、遺した「孫子評註」。江戸期の孫子研究を集大成した松陰の主著を、難解部分は適宜解説で補い、古今の事例や現代の問題などともつなげながら読み解く。

2018.12./ 393p
978-4-569-84192-2
本体 ¥1,080+税

読売新聞 2019/02/10

**ガンディー～秘教思想が生んだ聖人～(平凡社新書 899)**杉本 良男 著
平凡社

多様性を温存した普遍主義という見果てぬ夢への挑戦。人類の遺産である「非暴力」思想は、いかにして生まれたか。近代化の過程で科学万能主義に抗い誕生した秘教思想との関わりを軸に、ガンディーの知られざる実像に迫る。

2018.12./ 334p
978-4-582-85899-0
本体 ¥980+税

読売新聞 2019/02/10

**死ぬまでに一度は訪ねたい東京の文学館**増山 かおり 著
エクスナレッジ

太宰治文学サロン、ミステリー文学資料館、少女まんが館など、文学から漫画・アニメまで、東京の文学館全 60 館を紹介。飲食スペースの有無や図録以外のグッズ販売といった情報も掲載する。データ:2018 年 7?8 月現在。

2018.11./ 158p
978-4-7678-2553-3
本体 ¥1,600+税

読売新聞 2019/02/10



隔たりと政治～統治と連帯の思想～

重田 園江 著
青土社

自分とは境遇の違う人と共に生きるにはどうすればいいのか。すぐそこにある隔たりから、政治思想の問いは出発する。規律社会の統治のテクノロジーを鋭く読み解き、紛争や暴力を治め、分断に抗う連帯の可能性を構想する試み。

読売新聞 2019/02/10

2018:11./ 377p,7p
978-4-7917-7117-2
本体 ¥2,800+税



吉田謙吉と12坪の家～劇的空間の秘密～(LIXIL BOOKLET)

LIXIL出版

舞台美術をはじめ、装幀、文筆業など多ジャンルで活躍した吉田謙吉。彼が52歳で建てた“12坪の家”を軸に、その家に至るまでの活動の数々を辿りつつ、吉田謙吉という人の、劇的な空間作りを紐解く。折り込みページあり。

読売新聞 2019/02/10

2018:12./ 80p
978-4-86480-524-7
本体 ¥1,800+税



勝負～ニッポン映画評～

北川 れい子、浦崎 浩實 編
北川 れい子 著
ワイズ出版

70年代?90年代の日本映画を驚?み! 1983年?2001年の『週刊漫画ゴラク』連載のニッポン映画の作品評を中心に、1975年?88年のロマン・ポルノ論考などを収録。

読売新聞 2019/02/10

2018:11./ 637p
978-4-89830-324-5
本体 ¥3,500+税



犬と人はなぜ惹かれあうか

辻谷 秋人 著
三賢社

なぜ人と犬はともに暮らせたのだろう。ぼくらはなぜこんなに惹かれあうのだろう。ともに暮らして感じる犬の不思議とは…。人と犬との間の密接な関係を本気で探る。犬が登場することわざ・慣用句も収録。

読売新聞 2019/02/10

2019:1./ 254p
978-4-908655-11-1
本体 ¥1,500+税



「地方ならお金がなくても幸せでしょ」とか言うな!～日本を蝕む「おしつけ地方論」～(朝日新書 697)

阿部 真大 著
朝日新聞出版

格差の拡大、貧困の増大、地域コミュニティの衰退…。東京で起こっていることは地方でも起こっている。「東京の幻想=おしつけ地方論」に対抗する表象を提示することで、リアルな地方の姿を示す。

読売新聞 2019/02/17

2018:12./ 241p
978-4-02-295003-1
本体 ¥810+税



神遊の城(講談社文庫 あ 141-1)

赤神 諒 著
講談社

応仁の乱末期、若き甲賀忍者・三郎兵衛は細川京兆家当主を暗殺しようと今出川屋敷に潜入するが返り討ちに遭う。10年後、將軍義尚が六角氏征伐で湖南の鉤に陣を敷いた。三郎兵衛改め新蔵人は復仇のため、夜襲をかけるが…。

読売新聞 2019/02/17

2018:12./ 403p
978-4-06-514025-3
本体 ¥780+税





鬼子の歌～偏愛音楽的日本近現代史～

片山 杜秀 著
講談社

政治思想史家にして音楽評論家である著者が「クラシック音楽」で読む、日本の近現代 100 年。山田耕筰、伊福部昭、黛敏郎、三善晃らの名曲を辿りながら、この国の歩みに迫る。『群像』連載に書き下ろしを加え単行本化。

2019:1./ 542p
978-4-06-514321-6
本体 ¥3,200+税



読売新聞 2019/02/17



縄文時代の歴史(講談社現代新書 2510)

山田 康弘 著
講談社

1 万年以上続いた世界史上にも類例のないユニークな存在として知られる縄文時代。人々はどんなものを食べていた？ 家や集落の姿は？ 戦争はあった？ 近年の飛躍的な研究発展の成果を網羅し、最も新しい縄文像を提示する。

2019:1./ 325p
978-4-06-514368-1
本体 ¥920+税



読売新聞 2019/02/17



いい女、ふだんブツ散らかしており

阿川 佐和子 著
中央公論新社

父の葬式、認知症の母の介護、還暦過ぎての結婚…。じわじわ訪れる小さな老いを蹴散らして、挑戦し続けるアガワが、激動の日々を綴る。『婦人公論』連載を書籍化。

2019:1./ 234p
978-4-12-005156-2
本体 ¥1,200+税



読売新聞 2019/02/17



現代思想としての環境問題～脳と遺伝子の共生～(中公新書)

佐倉 統 著
中央公論新社

読売新聞 2019/02/17

1999:5./ 187p
978-4-12-101075-9
本体 ¥660+税



ナチュラルヒストリー(Natural History)

岩槻 邦男 著
東京大学出版会

大学、博物館、植物園と、ナチュラルヒストリー(自然史)のさまざまな研究・教育・普及の現場での豊富な経験をふまえて、生物多様性、生命系などをキーワードに「生きているとはどういうことか」を問い直す。シリーズ完結。

2018:12./ 6p,366p
978-4-13-060256-3
本体 ¥4,500+税



読売新聞 2019/02/17



愛と怒りの行動経済学～賢い人は感情で決める～(ハヤカワ文庫 NF 535)

エヤル・ヴィンター、青木 創 著
早川書房

感情は実は合理的なものであり、さまざまな利益をもたらしてくれる。ゲーム理論と進化論とに注目、「意外と賢い感情」の実例をさまざまな実験と自らのコミュニティーでの出来事に照らして、ビビッドに説き明かす。

2019:1./ 332p
978-4-15-050535-6
本体 ¥900+税



読売新聞 2019/02/17

**新☆再生縁～明王朝宮廷物語～<1>(プリンセスコミックス)**

滝口琳々 著
秋田書店
読売新聞 2019/02/17

2010:4./ 190p
978-4-253-19365-8
本体 ¥454+税

**天空の玉座<1>(ポニータコミックス)**

青木朋 著
秋田書店
読売新聞 2019/02/17

2013:9./ 190p
978-4-253-26221-7
本体 ¥429+税

**偽善のトリセツ～反倫理学講座～(河出文庫 ま 19-1)**

パオロ・マツァリーノ 著
河出書房新社
動機が純粋ならば、ひとを傷つけてもいいの？ 不純な気持ちでひとに親切にしたら、いけないの？ 倫理学と社会学から、誰も知らない偽善の真実に迫る。

2019:1./ 201p
978-4-309-41660-1
本体 ¥690+税



読売新聞 2019/02/17

**世界の家族/家族の世界**

椎名 誠 著
新日本出版社
世界のいろんな国、民俗によって「家族」のありかたは奥が深く、「家族」の価値観もずいぶん違う。椎名誠が世界各地で出会った家族を、写真とともに紹介する。天理教道友社発行『すきっと』連載を単行本化。

2019:1./ 95p
978-4-406-06332-6
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/02/17

**西洋の自死～移民・アイデンティティ・イスラム～**

ダグラス・マレー、町田 敦夫 著
東洋経済新報社
シリア難民・移民問題をめぐり当事者、賛成派、反対派などを徹底取材した英国の新進気鋭ジャーナリストが、欧州と西洋文明の終焉を予測。移民の受け入れによって、欧州の社会や文化が壊死しつつある姿を克明に描く。

2018:12./ 512p,14p
978-4-492-44450-4
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/02/17

**きみはいい子(ポプラ文庫 な 9-1)**

中脇 初枝 著
ポプラ社
17 時まで帰ってくるなと言われ校庭で待つ児童と彼を見つめる新任教師、娘に手を上げてしまう母親とママ友…。同じ町、同じ雨の日の午後を描く 5 篇からなる連作短篇集。家族が抱える傷とそこに射すたしかな光を描き出す。

2014:4./ 329p
978-4-591-13975-2
本体 ¥660+税



読売新聞 2019/02/17



復元 CG 日本の城

三浦 正幸 著

山川出版社

桃山時代から江戸時代にかけて築かれた近世城郭。萩城や竹田城など、26 の城の荘厳で秀麗な往時の姿を復元した CG 画像を一举掲載。現況との対比、CG 復元のもとになった絵図、縄張り図、古写真等も掲載。折込みページあり。

2019:1./ 172p

978-4-634-15143-7

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/02/17



学校の「当たり前」をやめた。～生徒も教師も変わる!公立名門中学校長の改革～

工藤 勇一 著

時事通信出版局

宿題は必要ない。クラス担任は廃止。テストも廃止。多くの学校で「当たり前」とされてきたことを問い直し、次世代を担う子どもたちにとって本当に必要な学校教育のカタチを追求する千代田区立?町中学校の取り組みを紹介する。

2018:12./ 214p

978-4-7887-1594-3

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/02/17



名古屋と明治維新

羽賀 祥二、名古屋市蓬左文庫 著

風媒社

尾張徳川家とその家臣たち、領民たちは、明治維新という大きな社会変革にそれぞれどのような役割を果たしたのか。幕末のさまざまな世相を書き留めた「青窓紀聞」などをもとに、変革期の尾張名古屋の歴史を叙述する。

2018:11./ 325p

978-4-8331-0579-8

本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/02/17



ナーブルスィー神秘哲学集成

アブドゥルガニー・ナーブルスィー、山本 直輝、中田 考 著

作品社

なぜ、イスラームは、“アッラー”のみを崇拝するのか? 18 世紀シリアに生きたスーフィー思想家アブドゥルガニー・ナーブルスィーの神秘哲学に関する著作。中田考「末法の神学」も収録。

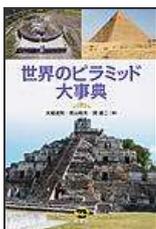
2018:12./ 322p

978-4-86182-730-3

本体 ¥4,800+税



読売新聞 2019/02/17



世界のピラミッド大事典

大城 道則、青山 和夫、関 雄二 著

終風舎

世界各地に点在するピラミッドを網羅。エジプトを中心としたアフリカ大陸、メソアメリカ、南米という 3 つの地域の研究者が、それぞれのフィールドにおけるピラミッドの詳細を、図版とともに紹介する。

2018:12./ 9p,639p

978-4-86498-064-7

本体 ¥15,000+税



読売新聞 2019/02/17



夫婦という同伴者

曾野 綾子 著

青志社

夫婦の間にも「本質的な礼儀」はある。「善か悪か」ではなく自分とどう違うのかを考える。結婚の良い面だけを凝縮して味わう。とにかくいっしょに住むことが家族の基本…。曾野綾子が夫婦について綴った文章を集成する。

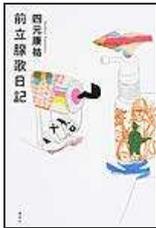
2019:1./ 218p

978-4-86590-077-4

本体 ¥900+税



読売新聞 2019/02/17



前立腺歌日記

四元 康祐 著
講談社

長年ドイツで暮らす「私」は、ある日、前立腺がんと診断された。手術、リハビリセンターでの3週間、その後の放射線治療、そして得たものは…。ドイツ在住の詩人が飄々と綴る闘病私詩小説。『群像』掲載を単行本化。

読売新聞 2019/02/24

2018:11./ 280p
978-4-06-513806-9
本体 ¥1,850+税



原節子の真実(新潮文庫 い-95-2)

石井 妙子 著
新潮社

小津との本当の関係、たったひとつの恋、空白の一年、そして引退の真相-。丹念な取材により、伝説を生きた女優・原節子の真実を鮮やかに甦らせた、本格評伝。写真も多数収録する。

読売新聞 2019/02/24

2019:2./ 433p 図版
16p
978-4-10-137252-5
本体 ¥710+税



脳はみんな病んでいる

池谷 裕二、中村 うさぎ 著
新潮社

普通って何だ？ 正常って何だろう？ パパになった脳研究者と神経系の難病で心肺停止に陥った作家が、知れば知るほどあぶない脳の魅力を語り合い、正常と異常の境界を問う。

読売新聞 2019/02/24

2019:1./ 284p,14p
978-4-10-333182-7
本体 ¥1,400+税



ジャップ・ン・ロール・ヒーロー

鴻池 留衣 著
新潮社

幻のバンド「ダンチュラ・デオ」の曲を復元したと動画をアップする喜三郎。CDデビューが決まり、「架空のバンドの物語」を共有していた学生バンドの戯れは、歴史的陰謀の情報戦へと巻き込まれて…。『新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2019/02/24

2019:1./ 152p
978-4-10-351462-6
本体 ¥1,500+税



神を統べる者<厩戸御子倭国追放篇>

荒山 徹 著
中央公論新社

大叔父の蘇我馬子が将来の仏教導入の切り札として期待する厩戸御子。敏達天皇は御子の異能を危険と判断し、密かに抹殺すべく動き出す。敵同士である馬子と物部守屋は協力して、後の聖徳太子、御子を国外へ逃そうとするが…。

読売新聞 2019/02/24

2019:2./ 361p
978-4-12-005166-1
本体 ¥1,800+税



リバタリアニズム～アメリカを揺るがす自由至上主義～(中公新書 2522)

渡辺 靖 著
中央公論新社

アメリカ社会で広がりつつあるリバタリアニズム(自由至上主義)。同性婚に賛成し銃規制には反対するなど、オバマにもトランプにも共感しない若い世代の実情を現地から報告する。『中央公論』連載を再構成のうえ加筆修正。

読売新聞 2019/02/24

2019:1./ 213p
978-4-12-102522-7
本体 ¥800+税





源頼朝～武家政治の創始者～(中公新書 2526)

元木 泰雄 著
中央公論新社

1180年、平氏追討の兵を挙げた源頼朝。流人の挙兵はなぜ成功し、鎌倉幕府はいかなる成立過程を辿ったのか。何度も死線をくぐり抜けた末に武士政権樹立を成し遂げ、53歳で急逝した頼朝の波瀾の生涯を描く。

2019.1./ 5p,296p
978-4-12-102526-5
本体 ¥900+税



読売新聞 2019/02/24



動物と人間～関係史の生物学～

三浦 慎悟 著
東京大学出版会

人間は動物とともにどのような歴史を歩んできたのか。先史時代から現代まで、そしてミツバチからクジラまで、動物と人間の関係史を、動物の生物学的な特性、あるいは関係を継続させた生物学的な要因に注目して分析・考察する。

2018.12./ 15p,821p
978-4-13-060232-7
本体 ¥20,000+税



読売新聞 2019/02/24



戯れの魔王

篠原 勝之 著
文藝春秋

「クマ、一緒に踊るか」「オレが?マロと?」白塗りのメイクで大駱駝艦の初舞台を踏む表題作ほか、生きる実感あふれる全4編を収録した小説集。『別冊文藝春秋』『文藝』掲載に書き下ろしを追加して単行本化。

2018.11./ 189p
978-4-16-390935-6
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/02/24



姉・米原万里(文春文庫 い104-1)

井上 ユリ 著
文藝春秋

ロシア語通訳であり、エッセイストだった姉・米原万里の思い出は、いつも食べ物と分かちがたく結びついている。食をめぐる名エッセイの舞台裏を妹・井上ユリが明かす、ユニークな回想録。秘蔵写真も多数掲載。

2019.1./ 264p
978-4-16-791215-4
本体 ¥700+税



読売新聞 2019/02/24



ぼくの伯父さん～長谷川四郎物語～

福島 紀幸 著
河出書房新社

戦前の解放感ただよう港町・函館で生まれ育ち、就職して満州に渡り、軍隊とシベリア抑留を経て帰国、文学・芸術運動へ。小説だけでなく、詩・童話・戯曲を書き、絵を描き、翻訳もした、作家・長谷川四郎の足跡をたどる。

2018.12./ 555p,6p
978-4-309-02748-7
本体 ¥4,400+税



読売新聞 2019/02/24



<原色>木材加工面がわかる樹種事典～289種の樹種ごとに硬さや色、匂いなどの特徴をわかりやすく解説～ 増補改訂

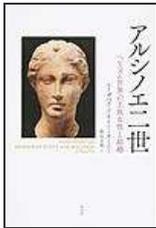
河村 寿昌、西川 栄明、小泉 章夫 著
誠文堂新光社

289種の木材の加工曲面が比較できる樹種事典。樹種ごとに、色、匂い、硬さ、木目、加工時の感触などを、作り手や木材関係者の経験を踏まえながら、写真と共にわかりやすく解説します。

2019.1./ 302p
978-4-416-51930-1
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/02/24



アルシノエ二世～ヘレニズム世界の王族女性と結婚～

エリザベス・ドネリー・カーニー、森谷 公俊 著
白水社

プトレマイオス王朝初期、一夫多妻から兄弟姉妹婚への時代を生き抜いた「クレオパトラの先駆者」アルシノエ二世の壮絶な生涯を追う。補論「アルシノエ二世の経歴に関する史料とその評価」なども収録。

2018.12./ 225p,74p
978-4-560-09667-3

本体 ¥4,400+税



読売新聞 2019/02/24



熱中ラジオ～丘の上の綺羅星～(ハルキ文庫 か 19-1)

嘉門 タツオ 著
角川春樹事務所

16歳で笑福亭鶴光師匠に入門し、多くのスターを輩出した伝説のラジオ番組「ヤングタウン」に、19歳で流れ星のように飛び込んだ若者がいた。嘉門タツオが自身のルーツを描き切った自伝的青春小説。

2018.12./ 287p
978-4-7584-4221-3

本体 ¥700+税



読売新聞 2019/02/24



人を動かす「色」の科学～1杯のコーヒーから始まる身近で不思議な世界～(サイエンス・アイ新書 SIS-425)

松本 英恵 著
SBクリエイティブ

おいしい卵の色は世界共通ではない? 謝罪会見に臨むスーツの色の正解は? 興味深い多数の具体例を紹介しながら、身近で不思議な色の世界を案内する。色を使いこなし、色にだまされない知恵も伝える。

2019.1./ 188p
978-4-7973-9821-2

本体 ¥1,000+税



読売新聞 2019/02/24



言語と美術～平出隆と美術家たち～

平出 隆 著
港の人

「言語」と「美術」が鋭く交差するところに生まれる「対話」の多様な形態に注目し、DIC川村記念美術館の収集作家を含む美術家たちの固有の思考や言語に光を当てる試み。カラー図版を豊富に収録した、同名展覧会のカタログ。

2018.12./ 205p
978-4-89629-355-5

本体 ¥3,000+税



読売新聞 2019/02/24



21世紀の資本

トマ・ピケティ 著
みすず書房

民間財産に基づく市場経済は、放置するなら、強力な収斂の力を持っている。だが一方で、格差拡大の強力な力もそこにはある。18世紀以来の富と所得の分配動学をめぐる歴史的知識の現状を明らかにし、今後の教訓を示す。

2014.12./
15p,608p,98p
978-4-622-07876-0

本体 ¥5,500+税



読売新聞 2019/02/24、毎日新聞 2019/02/24



幸福の増税論～財政はだれのために～(岩波新書 新赤版 1747)

井手 英策 著
岩波書店

自己責任社会から、頼りあえる社会へ。すべての人の命とくらしが保障される温もりある社会を取り戻すため、「増税」の必要性に切り込み、財政改革、社会改革の構想を大胆に提言する。

2018.11./ 8p,236p,5p
978-4-00-431747-0

本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/02/02



この百年の小説～人生と文学と～(講談社文芸文庫 な J3)

中村 真一郎 著
講談社

博覧強記の詩人・小説家・批評家が遺した、ユーモアとエスプリ、イロニーに満ちた日本近現代文学案内。漱石、谷崎、芥川、三島、大江他、百余の作品を取り上げ、「人生と文学」を巡り読み解く。

2019:1./ 317p
978-4-06-514322-3
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2019/02/02



荻窪風土記 改版(新潮文庫 い-4-8)

井伏 鱒二 著
新潮社

満州事変、二・二六事件、太平洋戦争…。時世の大きなうねりの中に、荻窪の風土と市井の変遷を捉え、親交を結んだ土地っ子や隣人、文学青年寥れした知友たちの人生を軽妙な筆で描き出す。自伝的長編。

2014:11./ 302p
978-4-10-103408-9
本体 ¥490+税



日本経済新聞 2019/02/02



RE:THINK～答えは過去にある～

スティーヴン・パール、佐藤 桂 著
早川書房

解決策はボツ案から得られる。一度は忘れ去られた電気自動車や電子タバコのように。現代を生き抜くうえで役立つ「再考」「RE:THINK」の効用について、豊富な実例をもって解説する。

2018:11./ 404p
978-4-15-209815-3
本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2019/02/02



僕の戦後舞台・テレビ・映画史 70年

久米 明 著
河出書房新社

初心者の僕を演劇の道に導き、地道に演技の基礎を指導してくれた岡倉士朗。岡倉亡き後、福田恒存と出会い…。舞台、テレビ、映画で活躍する名優・久米明が、戦後70年の演劇人生を振り返る。

2018:11./ 285p
978-4-309-27985-5
本体 ¥2,850+税



日本経済新聞 2019/02/02



オックスフォード&ケンブリッジ大学さらに世界一「考えさせられる」入試問題～まだ、あなたは自分が利口だと思いませんか?～(河出文庫 フ15-2)

ジョン・ファーンドン、小田島 恒志、小田島 則子 著
河出書房新社

あなたならどうやって警察に知られずに人に毒を盛りますか? 何が強い女性を作りますか? ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の入試問題を、ユーモアあふれる解答例とともに紹介します。

2018:4./ 250p
978-4-309-46468-8
本体 ¥820+税



日本経済新聞 2019/02/02



1968 三億円事件(幻冬舎文庫 に-21-2)

日本推理作家協会 編

下村 敦史、呉 勝浩、池田 久輝、織守 きょうや、今野 敏 著

幻冬舎

1968年12月に起きた「三億円事件」。昭和を代表するこの完全犯罪事件に、人気のミステリー作家5人が挑んだ競作アンソロジー。物語は事件の真相に迫れるのか? 『小説幻冬』掲載を再構成し文庫化。

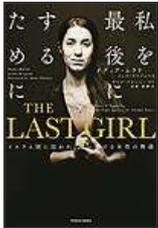
2018:12./ 281p

978-4-344-42812-6

本体 ¥580+税



日本経済新聞 2019/02/02



THE LAST GIRL～イスラム国に囚われ、闘い続ける女性の物語～

ナディア・ムラド、ジェナ・クラジェスキ、吉井 智津 著

東洋館出版社

貧しくも平和な村での暮らし。しかし、イスラム国の脅威は次第に強まり、虐殺と収奪の日々が訪れ…。戦下における武器としての性暴力の根絶に尽力し、2018年ノーベル平和賞を受賞した著者が、自身の壮絶な経験を物語る。

2018:11./ 413p

978-4-491-03617-5

本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/02/02



市場サイクルを極める～勝率を高める王道の投資哲学～

ハワード・マークス、貫井 佳子 著

日本経済新聞出版社

投資に重要な「市場サイクル」。投資家はサイクルを認識し、評価し、どうすべきかをそこから読み取らなければならない。サイクルの性質と規則性、景気サイクルなど、「サイクルとは何か」について解説する。

2018:11./ 423p

978-4-532-35799-3

本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2019/02/02



「中国製造 2025」の衝撃～習近平はいま何を目論んでいるのか～

遠藤 誉 著

PHP研究所

「中国製造 2025」を完遂すれば、中国はアメリカを越える。中国国家戦略の正体とは何か。習近平の真の狙いとは何か。人材と半導体および宇宙に焦点を当てながら分析し、中国の実態と野望を明らかにする。

2018:12./ 287p

978-4-569-84217-2

本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/02/02



ウイルスの意味論～生命の定義を超えた存在～

山内 一也 著

みすず書房

その生と死は、生物とはどこかずれている。ウイルスがどのような存在なのかを紹介し、ウイルスの視点から現在の生態系や地球の進化史、急速に発展した文明を見直す。『みすず』連載「ウイルスとともに生きる」を修正・加筆。

2018:12./ 239p,30p

978-4-622-08753-3

本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2019/02/02



離脱・発言・忠誠～企業・組織・国家における衰退への反応～(MINERVA 人文・社会科学叢書)

A.O.ハーシュマン 著

ミネルヴァ書房

人間の社会的行為の三類型を剔出したグランド・セオリーの改訳新版。経済学と政治学の対話の試みであるとともに、新古典派の市場主義原理によって切り裂かれつつある公共性復権の手がかりを与える現代社会科学の古典。

2005:6./ 212p,8p
978-4-623-04374-3

本体 ¥3,500+税



日本経済新聞 2019/02/02



「プロレス」という文化～興行・メディア・社会現象～

岡村 正史 著

ミネルヴァ書房

プロレスとはいったい何か。なぜファンは熱狂するのか。スポーツ社会学、ロラン・バルトのテクニクなど様々な方法論でプロレスの現状を読み解き、知られざるワンダーランドの深奥に迫る。力道山のプロレスが持つ意味も解明。

2018:12./
17p,305p,13p

978-4-623-08439-5

本体 ¥3,500+税



日本経済新聞 2019/02/02



総選挙はこのようにして始まった～第一回衆議院議員選挙の真実～

稲田 雅洋 著

有志舎

現代人の想像を超えた第一回総選挙の姿とは? 「初期議会=地主議会」という通説のなか、解明されずにきた「財産」づくりの実態や選挙戦のあり様を、長年にわたる膨大な史料の博捜により解き明かす。

2018:10./
20p,366p,13p

978-4-908672-24-8

本体 ¥3,400+税



日本経済新聞 2019/02/02



この先をどう生きるか～暴走老人から幸福老人へ～

藤原 智美 著

文藝春秋

いきなり「人生 100 年時代」と言われても…。立ちすくむ老人予備軍に、自立した生き方や、セカンドライフのための意識の大転換に必要な「リボン・ノート」の書き方など、「暴走老人化」せずに孤独と向かい合う術を伝授。

2019:1./ 190p
978-4-16-390955-4

本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2019/02/02、産経新聞 2019/02/03



謎とき『風と共に去りぬ』～矛盾と葛藤にみちた世界文学～(新潮選書)

鴻巣 友季子 著

新潮社

「風と共に去りぬ」を新たに翻訳した著者ならではの精緻なテキスト批評に、作者ミッチェルとその一族のたどった道のりを重ね合わせ、古典名作の「読み」を切り拓く。『yomyom』『新潮』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

2018:12./ 283p
978-4-10-603835-8

本体 ¥1,300+税



日本経済新聞 2019/02/02、朝日新聞 2019/02/16、産経新聞 2019/02/17



段ボールはたからもの～偶然のアップサイクル～

島津 冬樹 著

柏書房

不要なものから大切なものへ。路上や店先で放置されている段ボールから財布を作るプロジェクトを始めた著者が、9 年間でさまざまな国でダンボールを拾ってきた冒険を綴る。アップサイクルのヒントが詰まった一冊。

2018:12./ 207p
978-4-7601-5073-1

本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2019/02/02、読売新聞 2019/02/17、産経新聞 2019/02/24



キッシンジャー超交渉術～ハーバードが総力を挙げて徹底分析～

ジェームズ・K.セベニウス、R.ニコラス・バーンズ、ロバート・H.ムヌーキン、野中 香方子 著

日経BP社

偉大なネゴシエーター、キッシンジャーの交渉スタイルを客観的に解明。ビジネス交渉、外交、裁判にも活用できる史上最高の交渉者の奥義、交渉力の背景にある基本的な考え方、交渉手法の特徴を明らかにする。

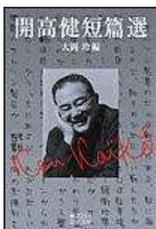
2019:1./ 404p

978-4-8222-5583-1

本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2019/02/02、読売新聞 2019/02/24



開高健短篇選(岩波文庫 31-221-1)

開高 健、大岡 玲 編

岩波書店

デビュー作、芥川賞受賞作、ヴェトナムでの戦場体験や阿片吸引をモチーフにした中期の傑作、病と闘いつつ死の直前に書き遺した絶筆-。開高健の創作の原点である短篇 11 篇を収録。大岡玲による解説つき。

2019:1./ 568p

978-4-00-312211-2

本体 ¥1,060+税



日本経済新聞 2019/02/09



情報と戦争～古代からナポレオン戦争、南北戦争、二度の世界大戦、現代まで～

ジョン・キーガン、並木 均 著

中央公論新社

ネルソンの慧眼、南軍名将の叡智、ミッドウェーの真実...。有史以来の情報戦の実態と無線電信発明以降の戦争の変化を分析し、諜報活動と戦争の結果の因果関係を検証。インテリジェンスの有効性を考察する。

2018:11./ 473p

978-4-12-005128-9

本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2019/02/09



老いと記憶～加齢で得るもの、失うもの～(中公新書 2521)

増本 康平 著

中央公論新社

老いへの偏見をなくすために-。高齢者心理学の立場から、若年者と高齢者の記憶の違い、認知機能の変化など、老化の実態を平易に解説。気分や運動などが記憶に与える影響にも触れ、人間の生涯で記憶が持つ意味をも問う。

2018:12./ 7p,206p

978-4-12-102521-0

本体 ¥780+税



日本経済新聞 2019/02/09



中国・新興国ネクサス～新たな世界経済循環～

丸川 知雄 編

東京大学出版会

今後の世界経済の発展のフロンティアは中国と新興国にあり、両者の安定的な発展が世界経済にとって重要な意味を持つようになる。中国と新興国の経済関係の現状を現場に近い視点から明らかにするとともに、今後の課題も示す。

2018:12./ 5p,369p

978-4-13-046126-9

本体 ¥5,000+税



日本経済新聞 2019/02/09



自転車泥棒

呉 明益、天野 健太郎 著

文藝春秋

20 年前の父の失踪とともに消えた自転車。その行方を追うち、いつしか台湾から戦時下の東南アジアのジャングルへ-。家族の「愛と記憶」を壮大なスケールで描く長篇。

2018:11./ 438p

978-4-16-390925-7

本体 ¥2,100+税



日本経済新聞 2019/02/09

**泥海**陣野 俊史 著
河出書房新社

2015年1月7日、パリ11区で「あの事件」は起きた。泥濘と腐臭の中を彷徨い続ける彼らは、マリカの「愛の物語」に引き寄せられるように語り出し…。ヨーロッパのムスリムを描いた物語。『文藝』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2019/02/09

2018:12./ 165p
978-4-309-02764-7
本体 ¥1,600+税**志ん生のいる風景(河出文庫 や19-5)**矢野 誠一 著
河出書房新社

業と自我を最高の藝にまで昇華させた落語の神様、五代目・古今亭志ん生。生前、「精選落語会」の企画者としても交際の深かった著者が、昭和の大名人の魅力の依ってきたところを、達意の文章で的確に綴る。

日本経済新聞 2019/02/09

2019:1./ 280p
978-4-309-41661-8
本体 ¥820+税**農業保護政策の起源～近代日本の農政 1874-1945～**佐々田 博教 著
勁草書房

激しい論争が続く日本の農業だが、明治初期には大規模化や海外輸出を目指していた。ではなぜ保護主義へと向かっていったのか。農業政策の初期形成過程を検証することを通じて、政官業「農政トライアングル」の神話を解体する。

日本経済新聞 2019/02/09

2018:11./ 4p,312p,8p
978-4-326-35177-0
本体 ¥3,500+税**入門組織開発～活き活きと働ける職場をつくる～(光文社新書 755)**中村 和彦 著
光文社

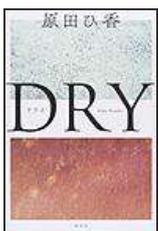
なぜ、組織の人的側面のマネジメントは重要な経営課題となるのか。組織開発が必要とされる理由、特徴と歴史、理論と手法などを、具体的な事例を交えて紹介する。組織開発の全体像が理解できる入門書。

日本経済新聞 2019/02/09

2015:5./ 204p
978-4-334-03858-8
本体 ¥740+税**残業の9割はいらない～ヤフーが実践する幸せな働き方～(光文社新書 955)**本間 浩輔 著
光文社

「企業が勝つため」「社員が幸せになるため」の希望に満ちた働き方改革論。「1on1」「どこでもオフィス」など、数々の人事施策を提唱してきたヤフー常務執行役員が、「新しい働き方」と「新・成果主義」を徹底解説する。

日本経済新聞 2019/02/09

2018:7./ 207p
978-4-334-04361-2
本体 ¥780+税**DRY**原田 ひ香 著
光文社

離婚して母と祖母がうら寂しく暮らす実家に戻った北沢藍。隣に住む幼馴染の馬場美代子は祖父をひとりで介護していたが、彼女の暮らす家にはおぞましい秘密が隠されていて…。堕ちていく女の果ての果てを描く、クライムノベル。

日本経済新聞 2019/02/09

2019:1./ 295p
978-4-334-91260-4
本体 ¥1,600+税



職場が生きる人が育つ「経験学習」入門

松尾 睦 著
ダイヤモンド社

成長する人材は「経験から学ぶ力」が違う。優れたマネジャーがいかに経験から学んでいるのかについての事例を交えながら「経験から学ぶ力」を解説し、それを高めるために必要な方法やツールを紹介する。チェックリストつき。

2011:11./ 220p
978-4-478-01729-6
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/02/09



木下サーカス 四代記～年間 120 万人を魅了する百年企業の光芒～

山岡 淳一郎 著
東洋経済新報社

木下サーカスとは、どんな共同体なのか。百余年の風雪に耐え、現代人を惹きつける根源に何があるのか。木下家四代にわたる経営者の軌跡から、旅興行を実業に変えた執念と、波乱に富む人生を浮かび上がらせる。

2018:12./ 325p
978-4-492-50305-8
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/02/09



政治を再建する、いくつかの方法～政治制度から考える～

大山 礼子 著
日本経済新聞出版社

米大統領よりも強い首相の政治的パワー、対決一辺倒で建設的でない国会、落とした人を落とせない選挙の仕組み…。日本の「政治制度」が抱える「構造問題」に迫り、具体的な解決策を探る。

2018:11./ 233p
978-4-532-17650-1
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/02/09



台湾海峡一九四九

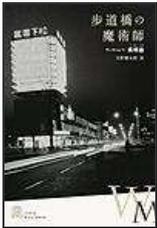
龍 應台、天野 健太郎 著
白水社

現在の台湾社会を構築するすべての要素が出揃った 1949 年。戦争、内戦という苛烈な社会情勢のなか、台湾の人びとが下したささやかな決断と、それがもたらした壮絶な流浪の軌跡を描く。

2012:6./ 434p
978-4-560-08216-4
本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2019/02/09



歩道橋の魔術師(エクス・リブリス)

呉 明益 著
白水社

1980 年代初頭、台北。物売りが立つ歩道橋には、子供たちに不思議なマジックを披露する「魔術師」がいた。今はなき「中華商場」とそこに生きた人々のささやかなエピソードを紡ぐ、ノスタルジックな連作短篇集。

2015:5./ 212p
978-4-560-09039-8
本体 ¥2,100+税



日本経済新聞 2019/02/09



鉢植えと人間

田嶋 リサ 著
法政大学出版局

古今東西、人間の暮らしは鉢植えとともにあった。アドニスの園の神話から、中東世界の織物文様、絵画や映画作品のなかの鉢植えの機能、オフィスの観葉植物まで。身近な植物栽培の歴史を振り返り、その意味を読み解く。

2018:12./
7p,268p,8,5p
978-4-588-37126-4
本体 ¥4,400+税



日本経済新聞 2019/02/09



星の牧場

庄野 英二、長 新太 著
理論社

戦争で記憶をなくし牧場に帰ってきたモミイチは、聞こえないはずの軍馬ツキスミのひづめの音を聞く。その音をたどっていくと山奥のお花畑に音楽を奏でるジブシーたちがいて…。幻想的な名作。再刊。

2003:10./ 294p
978-4-652-00522-4
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/02/09



人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか

玄田 有史 編
慶應義塾大学出版会

働き手にとって最重要な関心事である所得アップが実現しないのは、なぜ?22名の気鋭が現代日本の労働市場の構造を驚きと納得の視点から明らかにする、経済学アンソロジー。

2017:4./ 21p,310p
978-4-7664-2407-2
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/02/09



ダイバーシティ・マネジメント入門～経営戦略としての多様性～

尾崎 俊哉 著
ナカニシヤ出版

女性や外国人をはじめ、さまざまな人材の活用をめざすダイバーシティ・マネジメント。その経営戦略上の意義を、経済学と経営学の理論をふまえて考察する。

2017:3./ 3p,167p
978-4-7795-1150-9
本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2019/02/09



猫楽園

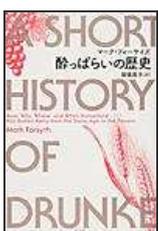
猫夫人、天野 健太郎 著
イースト・プレス

台湾の人気写真家・猫夫人が見つけた、台湾一ゆるい被写体、猫。観光名所や猫村、漁港、祠廟などにいる猫たちの写真とエッセイで、猫の不思議をつづります。

2013:6./ 1冊(ページ付なし)
978-4-7816-1008-5
本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2019/02/09



酔っぱらいの歴史

マーク・フォーサイズ、篠儀 直子 著
青土社

シュメール人や古代エジプト人は何を飲んでいたのであるのか? ギリシア人とローマ人とヴァイキングたちの宴とはどのようなものだったのか? 英国流の皮肉なユーモアに満ちた、酔っぱらいたちをめぐる人類史。

2018:12./ 260p,2p
978-4-7917-7127-1
本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2019/02/09



スーパーカブは、なぜ売れる～世界で一億台!驚異のベストセラー～

中部 博 著
集英社インターナショナル

1958年に発売されたスーパーカブは世界的ロングセラー商品となり、生産累計1億台を突破した。小型オートバイはなぜ世界中で愛用され続けるのか、庶民派モビリティをめぐる国際ビジネスの全貌を解き明かす。

2018:12./ 254p
978-4-7976-7367-8
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/02/09



民間主導・行政支援の公民連携の教科書

清水 義次、岡崎 正信、泉 英明、馬場 正尊 著
日経BP社

人を幸せにする「本当の公民連携事業」とは？ 米国における先進的な公民連携プロジェクトに学び、それを改めて日本版にローカライズして展開する「民間主導、行政支援」の地域再生事業の在り方を、余すところなく解説する。

日本経済新聞 2019/02/09

2019:1./ 239p
978-4-8222-5888-7
本体 ¥2,700+税



82年生まれ、キム・ジョン

チョ ナムジュ、斎藤 真理子 著
筑摩書房

ある日突然、自分の母親や友人の人格が憑依したかのようなキム・ジョン。誕生、学生時代、受験、就職、結婚、育児…。彼女の人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちほだかる困難と差別を描く。

日本経済新聞 2019/02/09、東京・中日新聞 2019/02/17

2018:12./ 189p
978-4-480-83211-5
本体 ¥1,500+税



調書

J.M.G.ル・クレジオ 著
新潮社

アダム・ポロ。人類最初の名前をもつこの不思議な男は、いったいどこからやってきたのか？太陽や海、犬やライオンとの交歓のなかに、奇妙な巡礼行を綴る。世界を震撼させた、23歳のデビュー長篇。

日本経済新聞 2019/02/16

2008:11./ 316p
978-4-10-510615-7
本体 ¥2,000+税



昆虫は美味しい!(新潮新書 798)

内山 昭一 著
新潮社

カミキリムシの幼虫はマグロのトロ、バッタはエビ、ハチの子はうなぎ!? 食材として昆虫を採って調理して食べること 20 年。究極のグルメ、昆虫食の第一人者が、その調理法、注意点、食糧難の解決策としての意義までを紹介。

日本経済新聞 2019/02/16

2019:1./ 214p
978-4-10-610798-6
本体 ¥760+税



生きる(中公文庫 ヨ1-1)

余 華 著
中央公論新社

生と死、愛と別れ、幸福と苦痛、時間の神秘-。40 数年の時を経た今、老人が朗々と民謡を歌い、自らの過去を語る。激動の中国を生き続けた、ある家族の物語。チャン・イーモウ監督映画「生きる」の原作。

日本経済新聞 2019/02/16

2019:1./ 331p
978-4-12-206686-1
本体 ¥1,200+税



大戦略論

ジョン・ルイス・ギャディス、村井 章子 著
早川書房

紀元前 5 世紀のペルシャ戦争から第二次世界大戦までを対象に、孫子、マキアヴェリ、リンカーンなど古今の戦略家・思想家を多数取り上げ、戦略思考の本質を浮き彫りにする。イエール大学の人気講座を書籍化。

日本経済新聞 2019/02/16

2018:11./ 431p
978-4-15-209814-6
本体 ¥2,700+税





なぜ日本の会社は生産性が低いのか?(文春新書 1202)

熊野 英生 著
文藝春秋

もはや先進国最低レベルに墮落した日本のカイシャの生産性。蔓延する長時間労働、個人に膨大な仕事量を求める会社、それでも給料が上がらないのはなぜなのか? 人気エコノミストが徹底解説する。

2019:1./ 236p
978-4-16-661202-4
本体 ¥880+税



日本経済新聞 2019/02/16



ええんとくちから(ちくま文庫 さ49-1)

笹井 宏之 著
筑摩書房

ええんとくちからええんとくちから永遠解く力を下さい 2009年、26歳でこの世を去った歌人・笹井宏之。鋭敏で繊細なまなざしから生まれた、やさしくつよい言葉が詰まった作品集。未発表原稿を加えて文庫化。

2019:1./ 197p
978-4-480-43575-0
本体 ¥680+税



日本経済新聞 2019/02/16



映画と芸術と生と〜スクリーンのなかの画家たち〜

岡田 温司 著
筑摩書房

西洋美術史研究家が映画という模倣が示す芸術家の詩的真実を解き明かした書。伝記映画に取材し、美術と映画の両者を自在に横断しつつ、芸術家という表象の可能性や多様性の深みに降り立つ。

2018:12./ 274p,20p
978-4-480-87398-9
本体 ¥3,400+税



日本経済新聞 2019/02/16



大塚正富のヒット塾〜「ごきぶりホイホイ」生みの親〜

日経ビジネススクール 編
日本経済新聞出版社

「ごきぶりホイホイ」の生みの親、アース製薬元社長、大塚正富。その開発の足跡をたどり、ヒット商品誕生の経緯を明らかにするとともに、彼の思考と行動を、パターン・ランゲージの手法を用いて解説する。

2018:11./ 272p
978-4-532-32162-8
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/02/16



越境の国際政治〜国境を越える人々と国家間関係〜

田所 昌幸 著
有斐閣

戦争や迫害によって移動を強いられる人々、観光や留学、商業目的で移動する人々。人の移動は国家と国際政治にどのような影響を与えるのか。近代から現代に至るまでの世界各地のさまざまな事例を参照しながら多角的に分析する。

2018:11./ 4p,321p
978-4-641-14924-3
本体 ¥5,500+税



日本経済新聞 2019/02/16



<ヤンチャな子ら>のエスノグラフィー〜ヤンキーの生活世界を描き出す〜

知念 渉 著
青弓社

イメージで語られがちヤンキーは、何を考え、どのようにして大人になるのか。<ヤンチャな子ら>を10年近くにわたって追跡調査し、大人への移行期に社会関係を駆使して生き抜く実際の姿を活写する。

2018:12./ 274p
978-4-7872-3445-2
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/02/16



テレビ社会ニッポン～自作自演と視聴者～

太田 省一 著
せりか書房

人はなぜテレビを見るのか？ 戦後、テレビと視聴者の暗黙の<共犯関係>によって誕生した<テレビ社会ニッポン>。その 65 年余に及ぶ歴史を検証し、転換期にあるテレビと視聴者の未来を展望する。

2019:1./ 238p,4p
978-4-7967-0378-9
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/02/16



メルカリ～希代のスタートアップ、野心と焦りと挑戦の5年間～

奥平 和行 著
日経BP社

メルカリはいかにして、5 年で 3000 億円市場を築いたのか。起業経験者たちがなぜ、メルカリ創業者のもとに集まるのか。国内事業の足元が固まっていないうちに、なぜ海外を目指すのか。巨大市場を築いた起業家たちに迫る。

2018:11./ 259p
978-4-8222-8950-8
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/02/16



<女流>放談～昭和を生きた女性作家たち～

イルメラ・日地谷=キルシュネライト 編
佐多 稲子 著
岩波書店

1982 年春、駆け出しのドイツ人日本文学研究者が、数か月の日本滞在中に、当時活躍中の女性作家たちに突撃インタビューを敢行した。佐多稲子、円地文子、田辺聖子ら昭和を生きた女性作家たちの本音が満載。

2018:12./ 16p,405p
978-4-00-061311-8
本体 ¥2,900+税



日本経済新聞 2019/02/16、毎日新聞 2019/02/17



昆虫考古学(角川選書 610)

小畑 弘己 著
KADOKAWA

縄文土器の表面や断面に現れた当時のタネやムシたちの「圧痕」。従来の方法ではその資料的限界からわからなかった縄文時代の人々の意(衣)食住の実態を、土器の粘土に残る痕跡から探る。

2018:12./ 234p
978-4-04-703645-1
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/02/23



老いた家衰えぬ街～住まいを終活する～(講談社現代新書 2504)

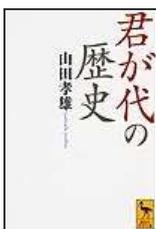
野澤 千絵 著
講談社

大死亡時代の到来で一層深刻さを増す「空き家問題」。様々な自治体の都市政策や空き家対策に関わる著者が、「住まいの終活」について今からできることを伝える。切り取って使う書き込み式「住まいの終活ノート」つき。

2018:12./ 206p
978-4-06-514166-3
本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/02/23



君が代の歴史(講談社学術文庫 2540)

山田 孝雄 著
講談社

「君が代」はいかに伝えられ、利用され、国歌とされるに至ったのか。「君」とは誰を指すのか、あの旋律は誰がつけたのか。文献を渉猟し、その沿革をたどる。「最後の国学者」が終戦後 10 年を経て遺した珠玉の論考。

2019:2./ 189p
978-4-06-514739-9
本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/02/23



かけらのかたち

深沢 潮 著
新潮社

SNS に彩られて、恋人、夫婦、親子関係に新たな変化が兆している。現在進行形の不確かな「いま」の、その先の生き方に気づいていく人々を活写する 6 篇。『小説新潮』『yomyom pocket』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2019/02/23

2018:11./ 201p
978-4-10-333543-6
本体 ¥1,600+税



日本が生んだ偉大なる経営イノベーター～

鹿島 茂 著
中央公論新社

この男の人生に、日本の経営学の全てがある！ 阪急電鉄、宝塚、東宝などを創設、東京電燈(後の東京電力)の再建などで手腕を発揮した近代日本を代表する経営者・小林一三の思想と業績を追う。『中央公論』連載を書籍化。

日本経済新聞 2019/02/23

2018:12./ 510p
978-4-12-005151-7
本体 ¥2,000+税



硫黄島～国策に翻弄された130年～(中公新書 2525)

石原 俊 著
中央公論新社

小笠原群島の南方に位置する硫黄島は、日本帝国の膨張により入植が進むが、やがて戦火に巻き込まれ、戦後は島民の住めぬ地となった。時の国策のしわ寄せを受けた島をアジア太平洋の近現代史に位置づけ、描きだす。

日本経済新聞 2019/02/23

2019:1./ 7p,221p
978-4-12-102525-8
本体 ¥820+税



人類との遭遇～はじめて知るヒト誕生のドラマ～

イ サンヒ、ユン シンヨン、松井 信彦 著
早川書房

原始人は人食い人種だった？ 農業はヒトにとって害のほうが大きい発明だった？ ヒトだけがなぜ長寿になった？ ヒトの起源を探求する古人類学を、予備知識のない読者を想定してやさしく解説した入門書。

日本経済新聞 2019/02/23

2018:12./ 350p
978-4-15-209825-2
本体 ¥2,300+税



キッドナッパーズ(文春文庫 か 48-6)

門井 慶喜 著
文藝春秋

失業中の 28 歳青年の冴えない日常に押し入ってきた強盗。「大声をだすな」というその声はやけに甲高く、背が低くて…。表題作をはじめ、全 7 編のミステリーを収録する。『小説すばる』ほか掲載を文庫化。

日本経済新聞 2019/02/23

2019:1./ 265p
978-4-16-791208-6
本体 ¥700+税



歴史としての東大闘争～ぼくたちが闘ったわけ～(ちくま新書 1383)

富田 武 著
筑摩書房

東大闘争とは何だったのか。闘争後、どのようにして「新しい社会運動」へと移っていったのか。かつて当事者であり、その後歴史家になった者の視点から、学生運動の実情と社会的・歴史的背景を捉えなおす。

日本経済新聞 2019/02/23

2019:1./ 206p
978-4-480-07200-9
本体 ¥760+税





日本人の勝算～人口減少×高齢化×資本主義～

デービッド・アトキンソン 著
東洋経済新報社

「日本人の優秀さ」こそ、この国の宝だ。在日 30 年、日本を愛する伝説のアナリストが、日本経済に関する外国人エコノミストの論文等の分析結果から人口減少・高齢化の影響を検証し、日本人の未来を示す。

2019:1./ 323p
978-4-492-39646-9
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/02/23



CASE 革命～2030 年の自動車産業～

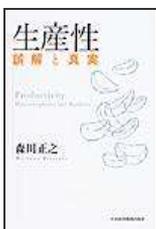
中西 孝樹 著
日本経済新聞出版社

C=接続、A=自動運転、S=シェアリング&サービス、E=電動化。4 つのキーワードがクルマの価値を変える! 日本を代表する自動車アナリストが、2030 年を見据えたクルマと自動車産業のリアルな将来像を提示する。

2018:11./ 6p,313p
978-4-532-32251-9
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/02/23



生産性～誤解と真実～

森川 正之 著
日本経済新聞出版社

生産性を高めるために何が必要なのか。気鋭のエコノミストが、広範な視点から、エビデンスに基づいて生産性と経済政策をめぐる論点を整理。真に有効な処方箋についての考え方を提示する。

2018:11./ 313p
978-4-532-35803-7
本体 ¥3,000+税



日本経済新聞 2019/02/23



最低賃金改革～日本の働き方をいかに変えるか～

大竹 文雄、川口 大司、鶴 光太郎 著
日本評論社

最低賃金を引き上げるべきか? 雇用への影響は? 貧困対策として有効か? 最低賃金に関する包括的な分析を行い、日本の最低賃金及びその政策のあり方について正面から政策提言を行う。

2013:7./ 12p,190p
978-4-535-55700-0
本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2019/02/23



隈研吾という身体～自らを語る～(建築・都市レビュー叢書 05)

大津 若果 著
NTT出版

「負ける建築家」隈研吾はなぜ勝ち続けられるのか? 隈研吾のこれまでの経歴と、数ある著作や建築物を検討し、さらにインタビューすることによって、彼の創作の隠された発条を明らかにする。

2018:12./ 10p,306p
978-4-7571-6076-7
本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2019/02/23



ポイント・オメガ(フィクションの楽しみ)

ドン・デリーロ、都甲 幸治 著
水声社

イラク戦争のブレンだった学者リチャードは、職を解かれ、サンディエゴ郊外の砂漠にやってくる。そこへ彼の経験を映画に撮ろうと、ジムが訪ねてきて…。虚空を領する絶対の静寂が、アメリカの光と闇、人間精神の孤独を穿つ。

2018:12./ 156p
978-4-8010-0010-0
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/02/23



日本経済論 15 講(ライブラリ経済学 15 講 APPLIED 編 7)

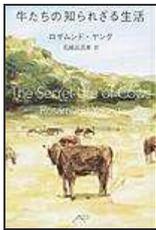
脇田 成 著
新世社

日本経済を学習するにあたって、知っておかねばならない事実と必要となる経済学的知識を 15 講にまとめたテキスト。データをもとに実態をつかむセンスを伝授し、自分の頭で政策を判断するための考え方をガイドする。

2019:1./ 6p,246p
978-4-88384-286-5
本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2019/02/23



牛たちの知られざる生活

ロザムンド・ヤング、石崎 比呂美 著
アダチプレス

牛は人間と同じくらい個性に富んでいる。利口な牛もいれば、鈍い牛もいる。人なつこかったり、慎重だったり…。イギリスのオーガニック農場「カイツ・ネスト・ファーム」で暮らす牛たちの日常(と事件)を、愛情豊かに描く。

2018:7./ 175p
978-4-908251-08-5
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/02/23



モンテレッジオ小さな村の旅する本屋の物語

内田 洋子 著
方丈社

イタリアの権威ある書店賞発祥の地がなぜ、トスカーナの山奥にあるのか? 舞台となった山深きモンテレッジオ村に居を構え取材した著者による歴史ノン・フィクション。方丈社 HP 連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2018:4./ 346p
978-4-908925-29-0
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/02/23



跳ぶ男

青山 文平 著
文藝春秋

母と友を失い、独りになった少年・剛は、能だけが生き甲斐だった。だが、土地も米も金もない貧乏藩の藩主の身代わりを命じられる。そこには、友の言葉と藩のある事情があった。『別冊文藝春秋』連載を単行本化。

2019:1./ 349p
978-4-16-390950-9
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/02/23、産経新聞 2019/02/24



マードーズ

長浦 京 著
講談社

殺人を犯しながら、誰にも知られず、日常生活を続ける者たちがいる。彼らが出会うとき、法では裁き得ない殺人者たちへの断罪が始まる。現代社会の「裏」を描いた犯罪小説。

2019:1./ 396p
978-4-06-514727-6
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/02/02



怪物の木こり

倉井 眉介 著
宝島社

サイコパス弁護士・二宮彰は、「怪物マスク」を被った男に斧で頭を割られかける。一方そのころ、頭部を開いて脳を奪う連続猟奇殺人が世間を賑わしていた。すべての発端は、26 年前に起きた「静岡児童連続誘拐殺人事件」に。

2019:1./ 283p
978-4-8002-9062-5
本体 ¥1,380+税



毎日新聞 2019/02/02



きれいな人

高橋 たか子 著
講談社

マダム・ヴィトラックの100歳の誕生日祝いに配られた詩集と、98歳の「小娘」イヴォンヌの何日にもわたって続いていく昔語り。長編小説。『群像』掲載を単行本化。

毎日新聞 2019/02/03

2003:6./ 317p
978-4-06-211813-2
本体 ¥1,900+税



作家との遭遇～全作家論～

沢木 耕太郎 著
新潮社

山本周五郎、色川武大、高峰秀子、檀一雄…。書物の森の中で、酒場の喧騒の中で、沢木耕太郎が心奪われる出会いをしてきた23名の作家たち。22歳の時の卒論「アルベール・カミュの世界」も収録した作家論集。

毎日新聞 2019/02/03

2018:11./ 438p
978-4-10-327520-6
本体 ¥1,800+税



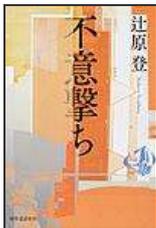
9つの脳の不思議な物語

ヘレン・トムスン、仁木 めぐみ 著
文藝春秋

これまでの人生の全ての日の出来事を記憶している、自宅のトイレからキッチンに行こうとして迷子になる、色盲なのにカラフルなオーラが見える…。脳の「エラー」がもたらす奇妙な人生から、脳科学の最先端を描く。

毎日新聞 2019/02/03

2019:1./ 317p
978-4-16-390964-6
本体 ¥1,950+税



不意撃ち

辻原 登 著
河出書房新社

不意撃ち、それは運命の悪意か。失踪した風俗嬢の過去を追う男が辿り着いたのは、伊勢の海に浮かぶ不思議な女たちの島だった…。「渡鹿野」ほか、人生の“予測不可能”な畏を描いた全5作品を収録。『文藝』等掲載を単行本化。

毎日新聞 2019/02/03

2018:11./ 235p
978-4-309-02756-2
本体 ¥1,600+税



後藤明生コレクション<4> 後期

後藤 明生 著
国書刊行会

事物や人間の関係性へと思索をめぐらし、鋭敏な批評眼とユーモラスな姿勢を貫いた作家、後藤明生の選りすぐりの作品を集大成。4は、大阪の日常を幻想空間へと異化する「しんとく問答」ほか、全16作を収録。

毎日新聞 2019/02/03

2017:7./ 496p
978-4-336-06054-9
本体 ¥3,000+税



日本のアール・ブリュット～もうひとつの眼差し～

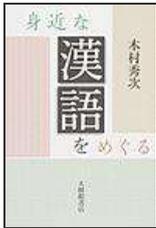
アール・ブリュット・コレクション 編
藤森 愛実 著
国書刊行会

「創る」ことへの原初の衝動から生まれた、ときに美しく、ときに奇妙で不思議な、独創的な作品世界。知的障がいのある、正規の美術教育を受けていない作り手「アール・ブリュット」24人が生み出した作品をまとめた画集。

毎日新聞 2019/02/03

2018:11./ 161p
978-4-336-06334-2
本体 ¥3,500+税





身近な漢語をめぐる

木村 秀次 著
大修館書店

字音のみの漢字、熟語構成字の意味、四字熟語の出自、自然科学用語と比喻…。
「読みのすがた」「意味のうごき」「表現のはたらき」などをテーマに、生活にいきづく漢語の知られざる魅力を探る。

2018/8./ 8p,230p
978-4-469-23279-0
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/02/03



本田宗一郎夢を力に(日経ビジネス人文庫)

本田 宗一郎 著
日本経済新聞出版社
毎日新聞 2019/02/03

2001/7./ 269p
978-4-532-19069-9
本体 ¥648+税



湯けむり行脚～池内紀の温泉全書～

池内 紀 著
山川出版社

昔ながらの湯治宿に似た宿がそこ、ここにあった。そして時間がとまったような何日かを過ごすことができた。単行本未収録の『アミューズ』連載エッセイを中心に、珠玉の100湯余りを秘蔵写真&イラストとともに紹介する。

2018/12./ 391p
978-4-634-15128-4
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/02/03



全共闘以後 改訂版

外山 恒一 著
イースト・プレス

1968年の全共闘から50年。80年前後のノンセクト学生運動、反原発ニューウェーブと札幌ほっけの会、原宿騒擾事件、洞爺湖サミット反対闘争…。 “全共闘以後”の若者たちの社会運動の歴史を描く。

2018/12./ 621p
978-4-7816-1746-6
本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/02/03



詩学叙説

吉本 隆明 著
思潮社

伝統的な七五調に西欧近代精神を盛り込もうとした島崎藤村。そこからの離脱を試みた初期象徴詩人。表現の様式の普遍性の面から、詩の歴史の変化を見極める。『文学界』『現代詩手帖』等に掲載したものをまとめる。

2006/1./ 284p
978-4-7837-1630-3
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/02/03



ヴァーチャル社会の<哲学>～ビットコイン・VR・ポストトゥルース～

大黒 岳彦 著
青土社

情報の<価値>とはなにか? アマゾン、ビットコイン、コミュ障、VR…。2010年代に入り、猛烈な勢いで自己組織化を遂げつつある情報社会の問題構造を体系的に炙り出す。

2018/12./
10p,383p,50p
978-4-7917-7126-4
本体 ¥3,600+税



毎日新聞 2019/02/03



NHK ラジオ深夜便 絶望名言

頭木 弘樹、NHK<ラジオ深夜便>制作班 著
飛鳥新社

「明けない夜もある」「無能、あらゆる点で、しかも完璧に。」絶望に行き当たり、絶望を見つめ、絶望の中で書き留められた文豪たちの「絶望名言」から生きるためのヒントを探す。NHK ラジオ深夜便の人気コーナーを書籍化。

2018.12./ 253p
978-4-86410-657-3
本体 ¥1,389+税



毎日新聞 2019/02/03



ツバメのくらし写真百科

大田 眞也 著
弦書房

雌をめぐる雄同士の決闘、巣作り、給餌、托卵、巣立ち、越冬ツバメなど、四季折々のツバメを活写。切手、バッジ、ロゴマーク、紙幣硬貨等の「ツバメのデザイン」も収録。2005 年刊「ツバメのくらし百科」のビジュアル版。

2019.1./ 150p
978-4-86329-184-3
本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2019/02/03、朝日新聞 2019/02/23



ニュートンに消された男〜ロバート・フック〜(角川ソフィア文庫 K130-1)

中島 秀人 著
KADOKAWA

「フックの法則」に細胞の「発見」。17 世紀に活躍した科学者フックだが、その死後にニュートンは彼を学界から消していった。なぜニュートンの論敵となったのか。抹殺されたもうひとりの天才、フックの業績と実像に迫る。

2018.12./ 355p,5p
978-4-04-400390-6
本体 ¥1,080+税



毎日新聞 2019/02/03、読売新聞 2019/02/17



日本の「中国人」社会(日経プレミアシリーズ 393)

中島 恵 著
日本経済新聞出版社

住民の大半が中国人の団地、人気殺到の中華学校、あえて帰化しないビジネス上の理由、グルメ中国人に不評な人気中華料理店…。もはや鳥取県の人口を遙かに超える日本在住の中国人の日常に潜入したルポルタージュ。

2018.12./ 231p
978-4-532-26393-5
本体 ¥850+税



毎日新聞 2019/02/03、日本経済新聞 2019/02/09



一日一文〜英知のことば〜(岩波文庫 別冊 24)

木田 元 編
岩波書店

深く、厳しく、温かく、ときに底知れぬ苦悩を湛えた古今東西の偉人たちが残したことばを、1 年 366 日に配列。短い章句が生き生きとした力で読む者に迫り、人生に潤いや生きる勇気を与えてくれる書。

2018.12./ 392p,16p
978-4-00-350027-9
本体 ¥1,100+税



毎日新聞 2019/02/10



ニッポン 2021-2050〜データから構想を生み出す教養と思考法〜

落合 陽一、猪瀬 直樹 著
KADOKAWA

人口・産業、統治構造、人材…。山積する社会課題を解決するために、次の時代をどう描くか? メディアアーティスト・落合陽一と作家・猪瀬直樹が、「2021」以後の日本のビジョンについて議論する。

2018.10./ 191p
978-4-04-107186-1
本体 ¥1,400+税

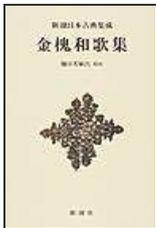


毎日新聞 2019/02/10

**天然知能(講談社選書メチエ 691)**郡司 ペギオ幸夫 著
講談社

いまこそ天然知能を解放しよう。人工知能と対立するのではなく、想像もつかない「外部」と邂逅するために。「知覚できないが存在する外部」について、多様な動物の行動や植物の実験をモチーフに論じる。

毎日新聞 2019/02/10

2019:1./ 249p
978-4-06-514513-5
本体 ¥1,700+税**金槐和歌集(新潮日本古典集成 新装版)**源 実朝 著
新潮社

大らかで重厚味のある独創的な歌を次々と詠み、二十八歳で非業の死を遂げた鎌倉三代将軍・源実朝。自撰の家集を中心に全ての和歌を、頭注と口語訳(色刷り)を付して収録。解説、実朝年譜なども掲載。

毎日新聞 2019/02/10

2016:10./ 327p
978-4-10-620846-1
本体 ¥2,200+税**動物園巡礼**木下 直之 著
東京大学出版会

通天閣とサバンナとサイ、別府地獄のカバとワニ、大須観音商店街のラクダ行列…。さまざまな動物園を巡ってきた著者が、行く先々の風景からヒトと動物との関係を考える。東京大学出版会の『UP』誌連載をもとに書籍化。

毎日新聞 2019/02/10

2018:11./ 7p,294p
978-4-13-083077-5
本体 ¥2,800+税**考証要集~秘伝!NHK 時代考証資料~(文春文庫 お64-1)**大森 洋平 著
文藝春秋

織田信長がいくら南蛮かぶれでも、望遠鏡を使わせたならドラマは台無し。テレビ制作現場のエピソードをひきながら、史実の勘違い、思い込み、単なる誤解を一刀両断する。NHK 制作現場から生まれた時代考証要集。

毎日新聞 2019/02/10

2013:12./ 327p
978-4-16-783894-2
本体 ¥620+税**考証要集<2> 蔵出し NHK 時代考証資料(文春文庫 お64-2)**大森 洋平 著
文藝春秋

「おしんこ」と言うのは下品、スリは戦国時代にいた。テレビ制作現場のエピソードをひきながら、史実の勘違い、思い込み、単なる誤解を一刀両断する。NHK 制作現場から生まれた時代考証要集第2弾。

毎日新聞 2019/02/10

2018:12./ 299p
978-4-16-791198-0
本体 ¥730+税**アメリカ死にかけ物語**リン・ディン、小澤 身和子 著
河出書房新社

ホームレスの男、薬物中毒の女、失敗した実業家、退役軍人…。誰からも見放された町のバーや路上で、たまたま出会った人びと。アメリカ社会の底辺を生きる人たちに交じりあいながら、その人生や町の詳細を浮き彫りにする。

毎日新聞 2019/02/10

2018:10./ 339p
978-4-309-22751-1
本体 ¥3,200+税



ココロ傷んでたえがたき日に

上原 隆 著
幻冬舎

コラムノンフィクションの第一人者・上原隆の作品集。妻が他の男の子供を産み、その子を頑張っ可愛がっていたのに結局は妻に去られた男の慟哭を綴った「ああ、なんてみじめな」ほか全 22 編を収録。『正論』掲載を単行本化。

毎日新聞 2019/02/10

2018:8./ 282p
978-4-344-03337-5
本体 ¥1,600+税



ルポ プーチンの戦争〜「皇帝」はなぜウクライナを狙ったのか〜(筑摩選書 0168)

真野 森作 著
筑摩書房

2014 年から、ウクライナで「戦争」が続いている。権力中枢に迫り、破壊された街に潜入して戦闘員と市民の声を聞く。プーチン政権によるハイブリッド戦争の生の姿を報告するルポ。『毎日新聞』掲載記事を基に大幅に加筆。

毎日新聞 2019/02/10

2018:12./ 394p
978-4-480-01676-8
本体 ¥1,800+税

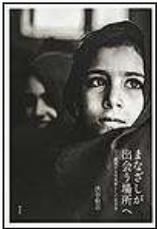


【オンデマンド版】國史大系<第 32 巻> 新訂増補 吾妻鏡 前篇

黒板 勝美 著
吉川弘文館

毎日新聞 2019/02/10

2007:11./ 800p
978-4-642-04034-1
本体 ¥15,500+税



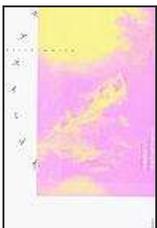
まなざしが会おう場所へ〜越境する写真家として生きる〜

渋谷 敦志 著
新泉社

どうして見つめ返すのか。困難を生きる人びとの眼を…。紛争や災害の現場取材し、困難を生きる人びととわかりあえないことに苦悩しつつ、「共にいられる世界」を切実に求めて旅する著者が自らに問うルポルタージュ。

毎日新聞 2019/02/10

2019:1./ 335p
978-4-7877-1901-0
本体 ¥2,000+税



エアスイミング

シャーロット・ジョーンズ、小川 公代 著
幻戯書房

1920 年代の英国。精神異常の烙印を押され、収容施設に収監された 2 人の女は、<想像力>と<声>を頼りに生き延びようとする。イギリス鬼才の劇作家、シャーロット・ジョーンズの代表作の全訳。訳者解題も収録。

毎日新聞 2019/02/10

2018:12./ 157p
978-4-86488-163-0
本体 ¥2,400+税



サピエンス異変〜新たな時代「人新世」の衝撃〜

ヴァイバー・クリガン=リード、水谷 淳、鍛原 多恵子 著
飛鳥新社

人類が発明した多数の新化合物、人工肥料の成分、プラスチック片...地球の「地質年代」はいま、1 万年以上続いた「完新世」に次いで、文明が生み出した「人新世」という新たな段階に突入している。「人新世」の衝撃を論じる。

毎日新聞 2019/02/10、日本経済新聞 2019/02/16、朝日新聞 2019/02/23

2018:12./ 334p
978-4-86410-662-7
本体 ¥1,806+税





武蔵野をよむ(岩波新書 新赤版 1740)

赤坂 憲雄 著
岩波書店

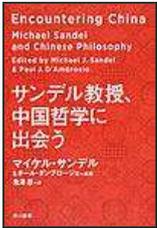
120 年前の名短篇、国木田独歩「武蔵野」は、当時にして新たな近代の感性に満ち、今にして豊穡で尽きせぬ発見がある。独歩の日記、古地図、植生や水利等の資料を駆使し、「武蔵野」を冒険的かつ愉楽的に探究する。

2018:10./ 13p,215p
978-4-00-431740-1

本体 ¥820+税



毎日新聞 2019/02/17



サンデル教授、中国哲学に出会う

マイケル・サンデル、ポール・ダンブロージョ、鬼澤 忍 著
早川書房

サンデル教授の共同体主義は、孔子、孟子、荘子ら中国古代の賢人たちの教えとどのように響き合うのか。政治、ジェンダー、遺伝子操作など現代の最重要テーマをめぐる気鋭の研究者 9 人の論考に、サンデル教授が応答する。

2019:1./ 356p
978-4-15-209832-0

本体 ¥2,700+税



毎日新聞 2019/02/17



コンビニ人間(文春文庫 む 16-1)

村田 沙耶香 著
文藝春秋

36 歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは 18 年目。これまで彼女なし。ある日、婚活目的の新入り男性、白羽がやってきて、そんなコンビニ的生き方は恥ずかしいと突きつけられるが...

2018:9./ 168p
978-4-16-791130-0

本体 ¥580+税



毎日新聞 2019/02/17



苦悩

マルグリット・デュラス、田中 倫郎 著
河出書房新社

ナチス占領下のパリ。強制収容所から帰らない恋人を待ち続ける、想像を絶する痛み。デュラスが「私の生涯で最も重要なものの一つ」と告白した自伝的記録。表題作ほか「ムッシュウ X 仮称ピエール・ラビエ」など全 5 編収録。

2019:1./ 285p
978-4-309-20764-3

本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2019/02/17



姉のカレー葉(ちくまライブラリー)

関礼子 著
筑摩書房

毎日新聞 2019/02/17

1993:11./ 256p
978-4-480-05194-3

本体 ¥1,408+税



幸福の一手~いつもよろこびはすぐそばに~

加藤 一二三 著
毎日新聞出版

「人生」も、一手一手の積み重ね。どんなにありふれた人生でも、限りない選択肢が用意されている。いつも笑顔の将棋棋士「ひふみん」加藤一二三に、毎日をもっと前向きに過ごすヒントを学ぶ。

2018:10./ 205p
978-4-620-32550-7

本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2019/02/17



一葉のポルトレ(大人の本棚)

小池昌代 解説 著
みすず書房

拗ね者、頑張り屋、寂しがり…。明治の青春を駆け抜けた、なっちゃんこと樋口一葉の素顔を知る家族・友人等が語るポルトレ(肖像)集。薄田泣菫、馬場孤蝶、幸田露伴らによる全 16 篇を収録する。

2012:6./ 184p
978-4-622-08099-2
本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/02/17



岩倉使節団の群像～日本近代化のパイオニア～

泉 三郎 編
ミネルヴァ書房

明治 4 年から 6 年にかけて米欧諸国に派遣された岩倉使節団には、いかなる人々が集っていたか。現代日本を覆う閉塞感を打ち破る鍵を、この群像たちの思想と営為の中に見つける試み。2016 年のシンポジウムをもとに再構成。

2019:2./ 25p,378p,8p
978-4-623-08400-5

本体 ¥4,000+税



毎日新聞 2019/02/17



ゴッホ～最後の3年～

バーバラ・ストック、川野 夏実 著
花伝社

「ひまわり」「星月夜」「夜のカフェテラス」など傑作の生まれた 3 年間。その果てに彼が見たものとは? 新たな視点からゴッホの晩年を描いた、アムステルダム・ゴッホ美術館等共同制作のグラフィックノベル。

2018:11./ 141p
978-4-7634-0869-3
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/02/17



拳の近代～明治・大正・昭和のボクシング～

木本 玲一 著
現代書館

明治・大正・昭和のボクシング史や戦中・戦後のスター選手を通して、ボクシングが日本でどのようにローカル化してきたのかを論じ、知られざる日本近代の一側面を明らかにする。巻末にテキストデータ請求券付き。

2018:11./ 355p
978-4-7684-5835-8
本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/02/17



明月記を読む～定家の歌とともに～<上>(コスモス叢書 第 1148 篇)

高野 公彦 著
短歌研究社

和歌史上欠くことのできない文献である、藤原定家の書いた漢文日記「明月記」から、定家の歌の背景と、定家が希求した美の世界を読み解く。『短歌研究』連載を書籍化。

2018:11./ 223p
978-4-86272-600-1
本体 ¥2,800+税



毎日新聞 2019/02/17



明月記を読む～定家の歌とともに～<下>(コスモス叢書 第 1148 篇)

高野 公彦 著
短歌研究社

和歌史上欠くことのできない文献である、藤原定家の書いた漢文日記「明月記」から、定家の歌の背景と、定家が希求した美の世界を読み解く。『短歌研究』連載を書籍化。

2018:11./ 227p
978-4-86272-601-8
本体 ¥2,800+税



毎日新聞 2019/02/17



静寂と沈黙の歴史～ルネサンスから現代まで～

アラン・コルバン、小倉 孝誠、中川 真知子 著

藤原書店

現代社会で失われつつある静寂や沈黙。歴史家にとって把握するのが困難な対象だったこれらの近代ヨーロッパにおける布置を、“感性の歴史家”アラン・コルバンが描き出す。「音の風景」と対をなす書。

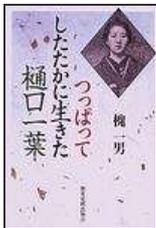
2018.11./ 216p

978-4-86578-199-1

本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/02/17



つっぱってしたたかに生きた樋口一葉

樋 一男 著

教育史料出版会

不遇のなかで職業的作家を志望し、自らの生活のなかから社会の底辺を描き続けた樋口一葉。「つっぱり」と「したたか」の 2 つをキーワードに、一葉が生み出した文学と、その短い生涯を読み解き、新しい一葉像を描く評伝。

2005.7./ 206p

978-4-87652-459-4

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/02/17



換気扇の下の小さな椅子で

清水 哲男 著

書肆山田

日が昇る 校庭に 赤い手の子供たちが整列する 一粒の麦もし死なずばというお話見上げると音楽室の窓から タンクタンクローが小さく手を振っている(「手」より) 詩集。『望星』、著者の個人誌『BD』掲載を書籍化。

2018.12./ 71p

978-4-87995-979-9

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/02/17



がんになったら知っておきたいお金の話～看護師 FP が授ける家計、制度、就労の知恵～

黒田 ちはる、日経メディカル開発 編

黒田 ちはる 著

日経メディカル開発

がんになったらお金はどうすれば良いの？ 看護師経験者のファイナンシャル・プランナーが、治療で経済面の悩みを抱える人に向け、自営業、会社員といったケース別により良い療養生活を送れるようアドバイス。チェック欄あり。

2019.1./ 357p

978-4-931400-90-0

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/02/17



永遠の星座～文芸の哲学的基礎～

熊瀬川 貴晶 著

ふらんす堂

西田幾多郎の「善の研究」の純粹経験に関する記述を読みながら、これは大峯あきらの俳句の世界そのままだと思えるようになってきた。「大峯あきら論」をはじめ、俳人・熊瀬川貴晶の俳句に関する評論を集成。収録句索引付き。

2019.1./ 133p

978-4-7814-1138-5

本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2019/02/18



永遠の瞬間～歌仙～

岡野 弘彦、三浦 雅士、長谷川 權、谷川 俊太郎、三角 みづ紀、蜂飼 耳、小島 ゆかり 著

思潮社

前の世は 文豪なりし すみれかな 春の七草 そらんずる 子よ(「すみれの巻」より)
歌人・岡野弘彦(乙三)、文芸評論家・三浦雅士、俳人・長谷川權らによる、故・大岡信を送る7つの歌仙を収録。

2019:2./ 133p
978-4-7837-3642-4
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/02/18



ドキュメント候補者たちの闘争～選挙とカネと政党～

井戸 まさえ 著

岩波書店

2017 年「異次元総選挙」が暴いた選挙ポスターの向こう側の闘争から、日本政治の機能不全が見えてくる。30 年にわたり政治の世界に身を置いてきた著者が、候補者となった者だけが知る、選挙の真実を語る。

2018:12./ 12p,202p
978-4-00-022960-9
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2019/02/24



米軍基地権と日米密約～奄美・小笠原・沖縄返還を通して～(日本大学法学部叢書第40巻)

信夫 隆司 著

岩波書店

日米密約はなぜ、どのようにして交わされるのか?刑事裁判権および、奄美－小笠原－沖縄の領土返還において構造化・多様化していく密約のメカニズムを、米軍の基地権という概念を用い、日米の一次史料から解明する。

2019:1./
10p,352p,13p
978-4-00-024726-9
本体 ¥5,800+税



毎日新聞 2019/02/24



帝国航路(エンパイアルート)を往く～イギリス植民地と近代日本～(シリーズ日本の中の世界史)

木畑 洋一 著

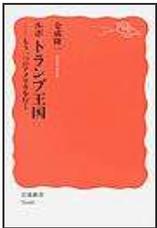
岩波書店

1860 年代から 1950 年代まで、多くの日本人がイギリス帝国の支配下の航路を辿り、ヨーロッパへと渡った。支配地域の状況に直接接触した彼らの経験や思索を通して、帝国世界における立ち位置を模索する近代日本の姿に迫る。

2018:12./
10p,231p,3p
978-4-00-028385-4
本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/02/24



ルポ トランプ王国～もう一つのアメリカに行く～(岩波新書 新赤版 1644)

金成 隆一 著

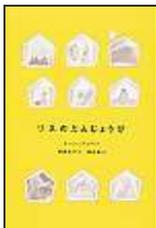
岩波書店

アパラチア山脈を越えると状況が一変した。トランプを支持する人々がいた。山あいのバー、ダイナー、床屋、時には自宅に上がり込んで聴いた、将来を案ずる勤勉な人たちの声を通して、もう一つのアメリカを紹介する。

2017:2./ 11p,265p
978-4-00-431644-2
本体 ¥860+税



毎日新聞 2019/02/24



リスのたんじょうび

トーン・テレヘン、野坂 悦子、植田 真 著
偕成社

ぼくの「たのしい」と、きみの「たのしい」がいっしょだと、もっといい。「ハリネズミの願い」の著者トーン・テレヘンがおくる、友だちと過ごす豊かな時間に満ちた9つのちいさな物語。

2018:9./ 128p
978-4-03-521360-4
本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2019/02/24



日本人の起源～人類誕生から縄文・弥生へ～(講談社学術文庫 2538)

中橋 孝博 著
講談社

日本列島の旧石器時代はどこまでさかのぼれるか。縄文人から弥生人への移行の真相は。アフリカ大陸に誕生した人類はどのようにして日本列島に辿りついたのか。最新の知見をもとに「日本人の起源」への様々な疑問を解き明かす。

2019:1./ 362p
978-4-06-514431-2
本体 ¥1,280+税



毎日新聞 2019/02/24



ヴィオラ母さん～私を育てた破天荒な母・リョウコ～

ヤマザキ マリ 著
文藝春秋

ヴィオラ演奏家という職業を選び、音楽と娘と自分の人生を真摯に愛する規格外の母リョウコ。昭和の破天荒シングルマザーが鼻息荒く生きて来た道を、娘のヤマザキマリが綴る。『CREA』連載を改題、加筆・修正して単行本化。

2019:1./ 239p
978-4-16-390962-2
本体 ¥1,300+税



毎日新聞 2019/02/24



飢餓海峡<上> 改訂決定版

水上 勉 著
河出書房新社

飢餓と混乱の敗戦直後、災害と犯罪を結びつけた問題作。雄大なスケールの間人ドラマ。晩年の著者が病苦をおし、パソコンにむかいながら、一字一句、全ページにわたって書き直した改訂決定版。上巻。

2005:1./ 332p
978-4-309-01692-4
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/02/24



箱の中の天皇

赤坂 真理 著
河出書房新社

2つの箱のうち、1つは本物、1つは偽物。マリに与えられたミッションは偽物を、マッカーサーの持つ本物とすり替えることだった…。日本人の行方を問う天皇小説。「大津波のあと」も併録。『文藝』『新潮』掲載を単行本化。

2019:2./ 222p
978-4-309-02775-3
本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2019/02/24



経済学者の勉強術～いかに読み、いかに書くか～

根井 雅弘 著
人文書院

経済学史研究者にして書評家の著者が伝える、読書と勉強のワザ。幅広い知識の吸収、語学力、古典の重要性とともに、経済学史の新たなアプローチ、清水幾太郎や菱山泉、伊東光晴らとの交流、経済学者の裏話なども語る。

2019:1./ 236p
978-4-409-24123-3
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/02/24



水俣病の科学 増補版

西村 肇、岡本 達明 著
日本評論社

20世紀に起きた世界でも最大・最悪の公害事件、水俣病。その原因は何だったのか？ あいまいさ・あやふやさのない科学的説明を試みる。昭和電工鹿瀬工場論文の虚偽を証明した補論を付す増補版。

2006:7./ 384p
978-4-535-58455-6
本体 ¥3,300+税



毎日新聞 2019/02/24



子どものまちのつくり方～明石市の挑戦～

泉 房穂 著
明石書店

子どもを核とするみんなにやさしいまちづくりが、人口・財政・経済の好循環を創る。発想の転換で旧弊を廃した自治体経営を行い、持続可能でユニバーサルな施策で時代を先導する明石市の挑戦を紹介する。

2019:2./ 211p
978-4-7503-4788-2
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/02/24



ポリショイ卒業～バレエダンサー岩田守弘 終わりなき夢の旅路～

大前 仁 著
垣内出版

バレエ界の最高峰ポリショイ・バレエ団初の外国人ソリスト・岩田守弘。その栄光の陰で、日本人であることの壁、体型へのコンプレックスに苦しみ続け…。成功も挫折もすべて飲み込み、歩み続ける彼の半生の記録。

2018:12./ 291p
978-4-7734-2034-0
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/02/24



庭と建築の煎茶文化～近代数寄空間をよみとく～

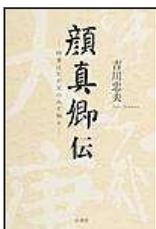
尼崎 博正、麓 和善、矢ヶ崎 善太郎 著
思文閣出版

これまで茶の湯の視座からのみ語られてきた近代数寄空間だが、実は最も大きな影響を与えたのは煎茶文化であった。近代数寄空間を煎茶的要素からよみとく、新たな解釈を提示する。煎茶的要素を含む数寄空間一覧も収録。

2019:1./ 7p,331p,10p
978-4-7842-1944-5
本体 ¥5,500+税



毎日新聞 2019/02/24



顔真卿伝～時事はただ天のみぞ知る～

吉川 忠夫 著
法蔵館

唐王朝から魯郡公なる爵位を授かり、中国の書法史上にその存在をきわだたせる顔真卿。その波瀾万丈の生涯を、実事求是の碩学が文質彬彬の筆致で描出した本格的な人物伝。

2019:1./ 203p
978-4-8318-7723-9
本体 ¥2,300+税



毎日新聞 2019/02/24



山口青邨の百句～文体の多様さ、自在さ～

岸本 尚毅 著
ふらんす堂

山本健吉に「単純で一本調子」と評された山口青邨だが、最晩年の句まで通読すれば、文体の多様さ、自在さを強く感じられる。その作品の中から百句を取り上げ、青邨の句の魅力を紹介する。

2019:2./ 203p
978-4-7814-1149-1
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/02/25